



山科駅前遊びと学びの拠点複合施設(仮称)

整備・運営構想

令和8年3月



京都市
CITY OF KYOTO

目次

第1章	構想策定の基本的事項	1
1-1	構想策定の目的等	1
1-2	上位計画・関連計画の整理	2
1-3	市民意見・ニーズの把握	5
第2章	本施設のコンセプト	7
2-1	本市の考える「遊び」と「学び」のあり方	7
2-2	本施設の目指す姿とコンセプト	8
2-3	本施設の主な機能	8
第3章	本施設の整備・運営の考え方	10
3-1	必要諸室・機能	10
3-2	整備の基本方針	11
3-3	管理運営の基本方針	12
第4章	事業手法	14
4-1	事業手法の比較評価方針	14
4-2	官民連携事業及び本事業の特徴を踏まえた評価項目	15
4-3	定性評価の結果	17
4-4	定量評価と概算事業費	20
4-5	事業者の参画意向	21
4-6	総合評価	22
第5章	事業スケジュールと今後の検討事項	23

参考資料

- ・元京都市ラクト健康・文化館の利用者数
- ・京都市が運営する屋内遊び場の分布状況
- ・「京都市はぐくみプラン<2025-2029>」意見募集（抜粋）
- ・「新京都戦略（骨子）」意見募集（抜粋）
- ・「meet us山科-醍醐」意見募集（抜粋）
- ・「京都市の新しい図書館構想に関する市民意識調査」意見募集（抜粋）
- ・「屋内遊び場に関するアンケート」（抜粋）
- ・山科区の小中学生 総合学習 など

第1章 構想策定の基本的事項

1-1 構想策定の目的等

(1) 構想策定の背景・目的

京都市(以下「本市」という。)では、今後25年間のまちの羅針盤として、「京都基本構想」を令和7年12月に策定しました。住民自治の精神や支え合いの精神といった「本物(ほんまもん)」が失われる危機すら感じられる状況にある中、これまで大切に育み、伝え遺してきた「歴史と文化の積み重ね」、「自然との共生」、「人とのつながり」という3つの価値を、未来に継承していく決意を示しています。

令和8年3月に改定された「新京都戦略」の下、すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」の実現を目指しています。

本市の山科区及び伏見区醍醐地域は、高齢化率が高い地域であり、未来を担う子ども・若者や子育て世代が「住んでみたい」、「住み続けたい」と実感できるまちづくりが重要です。そのため、山科・醍醐地域の魅力やポテンシャルを最大限生かし、「あらゆる世代がワクワクするような山科・醍醐」を目指すため、令和7年3月に、meetus山科・醍醐「みんなで創るまち PLAN」(以下「まちプラン」という。)を公表しました。同プランでは山科駅周辺エリアを、JR線、京阪京津線、地下鉄東西線が走る利便性の高いエリアで、京都の東の玄関口として位置付けられています。

そして、新京都戦略及びまちプランを踏まえ、遊び場と図書館を軸に、あらゆる世代の居場所となる「山科駅前遊びと学びの拠点複合施設(仮称)」(以下「本施設」という。)を整備・運営することとし、この度、本「山科駅前遊びと学びの拠点複合施設(仮称)」に係る整備・運営構想(以下「本構想」という。)を策定しました。

本構想は、本施設の目指す姿など、基本的な考え方を整理し、コンセプトや導入機能、整備・運営手法の方向性等を示すことを目的としています。

(2) これまでの経緯

山科駅前に位置する元京都市ラクト健康・文化館は、プールやジム、コミュニティルームを有する施設として、市民の健康づくり支援や交流促進、賑わい創出といった役割を果たしてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和5年4月から施設を休館することとなり、その後、民間事業者のノウハウによる運営を目指して公募し、契約候補事業者を選定しましたが、契約締結に至らなかったため、施設のあり方及び地域の賑わい創出等につながる有効活用策の検討を進めてきました。

令和6年度に、まちプラン策定に向けた検討を進める中、市民の皆様から「魅力的な図書館がほしい。」や、「家族で楽しめる公園や屋内遊び場を。」等といった御意見が多く寄せられました。また、新京都戦略では、公共空間を開かれた「テラス」のように市民が集い・交ざり合う居場所として活用していくパブリック「テラス」プロジェクトや図書館の多機能化が掲げられました。こうしたことを踏まえ、まちプランにおいて、元京都市ラクト健康・文化館への山科図書館の移転・機能充実を図るとともに、本市東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場を併設し、あらゆる世代が集う遊びと学びの拠点としてリニューアルすることを公表しました。

本構想は、以上の経緯を踏まえて策定することとしました。

1-2 上位計画・関連計画の整理

本構想の策定にあたっての前提となる本市の関連計画を、以下に整理します。

(1) 京都基本構想

京都基本構想は、今後25年間のまちの羅針盤となるものであり、京都を京都たらしめてきた3つの価値を示すものです。そして、これらの価値を未来に引き継いでいくため、「第四章 わたしたち京都市民がめざすまち」では、以下の9つのまちの将来像を描いています。

図表 1-1 京都基本構想における「9つのまちの将来像」

第一節 歴史と文化を介して人間性を回復できるまち
① 本物(ほんまもん)を追究・創造し続ける
② 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける
③ 「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる
④ 平穏と静寂のもとで自己と世界に深く向き合える
第二節 自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち
⑤ 謙虚に自然と関わり続ける
⑥ 災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る
第三節 自他の生とともに肯定し尊重し合えるまち
⑦ 多層的でゆるやかなつながりが続く
⑧ 支えあいの中で日々の生活を営める
⑨ ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

(2) 新京都戦略

新京都戦略は、すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜ける世界都市 京都」の実現を目指して、2027年度までに実施する政策等を示したものです。その中で示された6つの政策及び「リーディング・プロジェクト」の中で、図書館の多機能化を通じた第三の居場所づくりや公共施設等を活用した遊び場の創出を掲げています。

図表 1-2 新京都戦略 リーディング・プロジェクト(抜粋)

【ひらく】② 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト
● 図書館についても交流機能を高めるなど多機能化するとともに、カフェなど居心地のよい第三の居場所(サードプレイス)づくり、さらには、新たなつながりや活躍の機会を創出し、価値や気づきに出会える場所(フォースプレイス)に。
【ひらく】④ 地域の魅力向上プロジェクト
● 洛西“SAIKO”プロジェクトやmeetus山科-醍醐といった地域活性化プロジェクトを引き続き強力に推進するとともに、西京極総合運動公園や北山エリアなどのスポーツや文化の拠点機能、また、北部山間地域などの自然、歴史、文化といった地域資源など、それぞれの地域が紡いできた個性、まち柄を活かしたまちづくりを推進し、新たな魅力や賑わいを創出。

【つなぐ】 ①地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト
● 公園の魅力向上やスポーツ施設など地域の施設の活用、地域団体の連携、京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かした夢中になれる学びの場の創出等により、子ども・若者の「居場所」と地域活動への参加等による「出番」を創出。地域の絆や社会全体で子どもを見守り育てる包摂性を大切に、つながり、支え合う子育て環境を充実。

図表 1-3 新京都戦略 政策集（抜粋）

政策の柱2 居場所と出番により、つながり・支え合う 「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」
(1) つながり・支え合いによる地域コミュニティの活性化と持続可能な地域づくり ②地域コミュニティ Hub 等の取組を通じた、図書館における、自宅や学校・職場以外の第三の居場所づくり、さらには、新たなつながりや活躍の機会の創出による価値や気づきに出会える場づくりなど、図書館の多機能化に向けた取組の推進
政策の柱4 京都ならではの学びと子育て環境を通して 「未来を担う子ども・若者を社会全体で共にはぐくむまち」
(2) 子ども・若者を誰一人取り残さない切れ目ない支援の推進 ③公園の魅力向上や公共施設等の活用による遊び場や活動の場の創出、こども本の森の整備【R9】、元ラクト健康・文化館への遊びと学びの拠点複合施設の整備【R10 以降】、さらには京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりを活かした夢中になれる学びの場の創出など、子ども・若者の「居場所」と、地域活動への参加等による「出番」の創出・充実、及び情報発信

(3)meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」

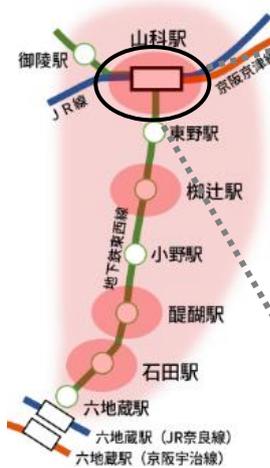
meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」は、地域の魅力やポテンシャルを最大限活かし、あらゆる世代がワクワクするような山科・醍醐を目指すため、まちづくりの方向性やまちづくりの具体策を取りまとめたものです。まちづくりの具体策の一つとして、本施設の概要を以下のように示しています。

図表 1-4 meetus 山科-醍醐「みんなで創るまち PLAN」における「まちづくりの方向性及び具体策」（抜粋）

1.まちづくりの方向性	
まちの将来像	多様な人々が住み、学び、つながることのできる文化・教育のまち
meetus で目指すまちづくり	○ 子どもの可能性が、どんどん伸びるまちに ○ 地縁のきずな、志縁のきずなが重なり合って、みんなが主役のまちに ○ 夢を実現に導く地域住民や事業者の皆さまと、行政がコラボレーション ○ meetus を出発点に、まちを変える、まちが変わる
まちづくりを進めるうえで大事にする視点	○ 新しい公共空間 ・ 開かれた場所における、多様な方々の交ざり合い、多様な世代の居場所づくり ○ 子育てしやすいまち ・ 子育て環境の充実 ・ 子どもたちの可能性を広げる、文化・教育のまちづくり ○ 多様な主体との共創 ・ 民間アイデアの積極的活用
meetus で描く山科のまちづくり(イメージ)	○ 子どもが学び・遊び、あらゆる世代の居場所として新しい拠点も生まれ、みんなが行き交う、京の東の玄関口へ

2. まちづくりの具体策

- 元ラクト健康・文化館(ラクト B 5階・6階)へ、山科図書館の移転・機能充実を検討
- また、京都市東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場の併設など、あらゆる世代の居場所づくりに向け検討



1 山科駅周辺を人々が行き交う玄関口へ！

- ・ 賑わいを創出し、利便性を向上させるため、山科駅周辺の土地の有効活用を検討。
- ・ JR山科駅の改良による特急「はるか」の山科駅への延伸
- ・ JR西日本と連携し、山科駅を中心に山科らしさを取り入れたデザインを検討
- ・ 山科駅周辺をはじめに、山科・醍醐、東山界わい、宇治などへの周遊観光を推進。



2 ラクトに遊びと学びの拠点を設置！

- ・ 元ラクト健康・文化館(ラクトB 5階・6階)へ、**山科図書館の移転・機能充実**を検討。 ※1
- また、京都市 **東部地域初**となる**大型の子どもの屋内遊び場**の併設など、あらゆる世代の居場所づくりに向け検討！

(4)京都市はぐくみプラン<2025-2029>

京都市はぐくみプラン<2025-2029>は、妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援をより一層推進し、【「こどもまんなか」のまち・京都】を実現するために策定した、子ども・若者に係る総合的な計画です。「第Ⅱ部 具体的方策」において、以下の施策や推進方針等について示しています。

図表 1-5 京都市はぐくみプラン<2025-2029>における「具体的方策」(抜粋)

第1章 本計画における重要事項
<p>①子ども・若者、子育てにやさしい「こどもまんなか社会」づくり</p> <p>【具体的な施策】</p> <p>② 子育てにやさしいまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な遊び場の拡充：全天候型の遊び場の確保に向けた検討 など
第2章 施策の体系
<p>③ 子育て当事者を支える施策</p> <p>① 子ども・若者、子育てにやさしい「こどもまんなか社会」づくり</p> <p>イ こどもまんなかまちづくり</p> <p>特に、洛西地域や山科・醍醐地域など、地域の活性化に重点的に取り組む地域などにおいて、子ども・若者が集う場やそのアクセスの確保、親同士や地域住民との交流機会を生み出す取り組みなどを推進していきます。</p>

1-3 市民意見・ニーズの把握

「meetus 山科-醍醐」における意見募集をはじめ、「京都市の新しい図書館構想に関する市民意識調査」や「屋内遊び場に関するアンケート」などを行いました。また、山科区の小中学校においては、総合的な学習の時間等を活用し、「meetus 山科-醍醐」をテーマに多岐にわたった議論をしている学校もあり、その中で、元京都市ラクト健康・文化館に移転する「山科図書館」や「子どもの屋内遊び場」についての夢や想いを企画にまとめ、提案してくれた子どもたちもいました。

このように様々な場面において子どもから大人まで幅広い市民の皆さまから多くの御意見をいただきました。

<以下、一部抜粋>

①京都市の新しい図書館構想に関する市民意識調査

- ・カフェの併設やソファ席を設置するなど、席を多く、ゆったりとした空間を確保してほしい。
- ・ベンチでいいので、本棚と座るところが混在しているのがいいと思う。
- ・子どもの読み聞かせスペースと本を静かに読むスペースを区分してほしい。
- ・子どもが多少騒いでもあたたかく見守ってくれるような雰囲気づくりが必要。また、子どもと長時間滞在する際の軽食をとれる場所がほしい。
- ・子どもから大人まで利用できる自習スペースを設置してほしい。予約制でも良い。
- ・その日の目的を「図書館」とできるくらい、一日中家族で過ごせる施設に。

②屋内遊び場に関するアンケート

- ・子どもが疲れて昼寝してくれるくらい動いて遊べる遊具がある場所。
- ・月齢に応じてスペースが分かれており、安全に遊べる場所。
- ・家族でご飯を食べたり休憩できるフリースペースもあったら嬉しい。
- ・入場制限等があり混雑しない施設。
- ・定期的に清掃していただけたら、衛生的に安心できる場所なら有料でも遊びたい。
- ・京都市民とそれ以外の方とで料金を差別化してほしい。

③音羽川小学校による発表

- ・図書館で勉強ができるようにしてほしい。そのためにしきりで分かれたスペースや、大小の机やたくさんの座席を用意し、本の場所もすぐわかるようにしてほしい。
- ・飲食スペースを設けたり、小さい子どもや障がい者も安心して過ごせるようにすれば、子連れでも長く居たくなる、愛される図書館になると思う。
- ・子どもに特化した図書館にすれば、子ども連れの家族が増え、山科がにぎやかで良い街になると思う。

- ・本が表紙を見せて並べると、本の良さをより知れるようになる。また、ポップカードを工夫することで、たくさんの本に出合える図書館になる。
- ・山科クイズを行うなど、山科の魅力がわかる図書館にしてほしい。

④安朱小学校による発表

- ・今の山科図書館の雰囲気少し暗いため、マスコットキャラクターを作り、児童書コーナーに掲示したり、イベントを実施すると明るくなるのではないかな。
- ・おしゃれな図書館カフェを作って、大人も子どもも楽しめる空間に。
- ・今の山科図書館には中高生が少ないので、個室や長机など様々なタイプの自習スペースを設置するのはどうか。また雰囲気が暗いので観葉植物を増やしたり、パステルカラーの色彩を使うなど親しみやすい雰囲気づくりが必要ではないかな。
- ・座席をもっと増やすとともに、カフェなど飲食可能なスペースも設置することで、子どもから大人まで落ち着ける空間になるのでは。
- ・子どもの遊び場は、保育園や幼稚園の人などが交流でき、活気であふれる屋内遊び場になればいい。子どもだけでなく大人も気軽に入れて休憩できる空間にしてはどうか。
- ・安心安全で、したいことができる遊び場であってほしい。地域の人たちみんなが楽しく過ごせる施設にしてほしい。
- ・<まちづくり全体に対して>高齢者視点で、大きな看板や、スロープ、公衆トイレの設置が求められている。また子どもや子育て世代の視点で見ると、ファミレスやカフェのような人とゆっくりお話ができる場所が求められている。

その他、いただいた御意見の詳細については、参考資料を御参照ください。

第2章 本施設のコセプト

2-1 本市の考える「遊び」と「学び」のあり方

「遊び」と「学び」は誰のためのものでしょうか？

「遊び場」とは、子どもが遊ぶためだけのものでしょうか？

「図書館」とは、静かに本を読むためだけのものでしょうか？

「遊び場」と「図書館」は、水と油のように、正反対のものでしょうか？

本市はこれらの疑問に向き合い、何度も問い直しながら、本構想を検討してきました。本構想を検討するにあたり重視したことは、千年を超える歴史を紡いできたわたしたち京都市民にとって、「遊び」や「学び」はどのようなものだったのか、そして、これからどうあるべきかという視点です。

京都基本構想の第二章には、次の一文があります。

「このまちは、伝統を保全するのみならず、先駆や進取の気性と創意工夫に満ちた遊び心によってさまざまな文化や産業を創出してきた。」

この一文は、まさに本構想が重視すべき視点を示唆しています。

世界に誇る京都の歴史と文化は、先人たちが互いに切磋琢磨しながら技を磨き、本物（ほんまもん）を見極める力を養い、遊び心を忘れず、夢中で学び合い、そして、そうした姿勢を互いに尊重し合いながら、その精神や技を連綿と次代に受け継いできた結晶といえるでしょう。そして、これからも、わたしたち京都市民は、この唯一無二の結晶を大切に守りながら、さらに美しく磨き上げていかなければなりません。

つまり、わたしたち京都市民にとっての「遊び」と「学び」とは、これまでもこれからも、**京都のまちの根底をなすものといえるでしょう。**

そして、その「遊び」や「学び」は、**子どもや大人という垣根なく、すべての京都市民のためにあるものなのです。**

子どもが好奇心をもって夢中で遊ぶことで、学ぶ力を育むだけでなく、夢中と感動に溢れた人生の土台を培います。また、大人になってからも好奇心をもって夢中で遊び、学び続けることで、人生を創造的で豊かにします。

そして、わたしたち京都市民一人ひとりが夢中になれる遊びや学びを互いに尊重し合い、伝え合い、交ざり合い、そのつながりから新たな価値を創造する京都のまちは育まれていくのです。

以上の考えを大切に、本市は遊びと学びの拠点をつくり、市民生活の豊かさの向上につなげます。

2-2 本施設の目指す姿とコンセプト

本市の考える「遊び」と「学び」のあり方、上位計画・関連計画等を踏まえ、本施設の目指す姿及びコンセプトを掲げます。

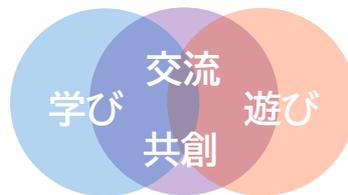
本施設の目指す姿

- ① 誰もが気軽に立ち寄れ、居心地が良いと感じる空間で、それぞれの学び方、遊び方、過ごし方ができる施設
- ② 多様な知に触れ、多彩な人々との交流・遊びを通じて、大人も子どもも、あらゆる人の学びたいがかなえられ、夢中になれることに出会える施設
- ③ 夢中と感動に溢れた人生、それぞれが望む生き方や暮らし方の実現に寄与する施設
- ④ 子どもとの交ざり合いを通じて、地域の絆で子どもを見守り育てるまちづくりに寄与する施設
- ⑤ 育児相談等の子育て家庭支援により、子どもの健やかな成長を育む施設

本施設のコンセプト

未来に向けて絶えず変化し続ける
交流 × 遊び × 学び 拠点

「夢中」と「感動」に溢れ、
学び続けられる



進取の気性と
創意工夫に満ちた
「遊び心」を育む

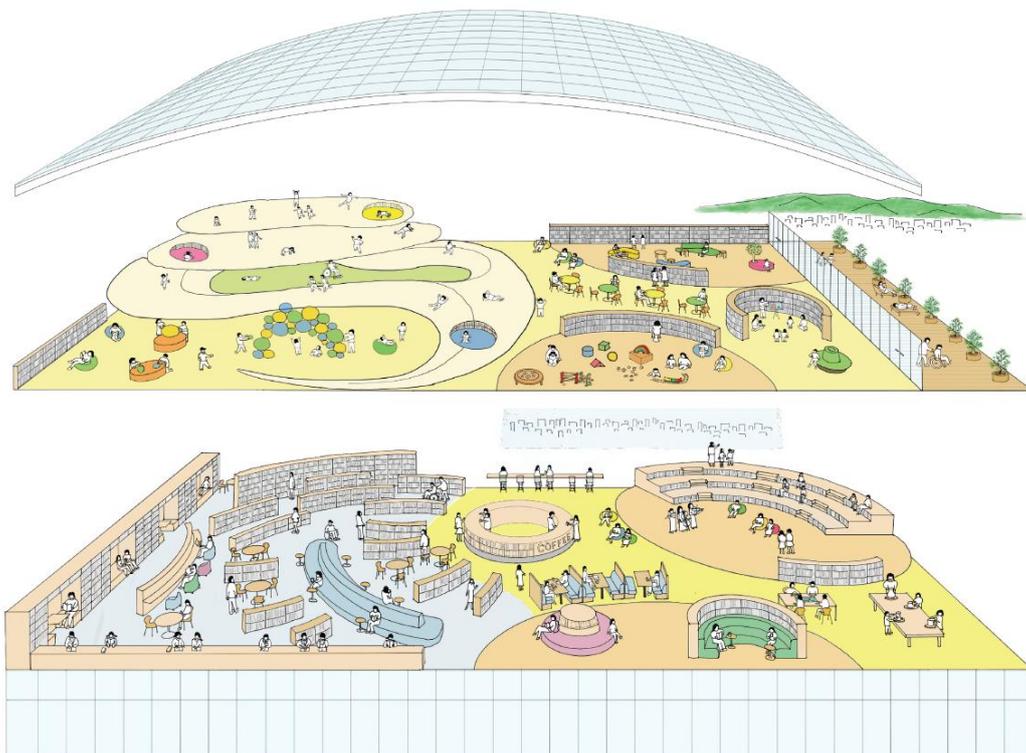
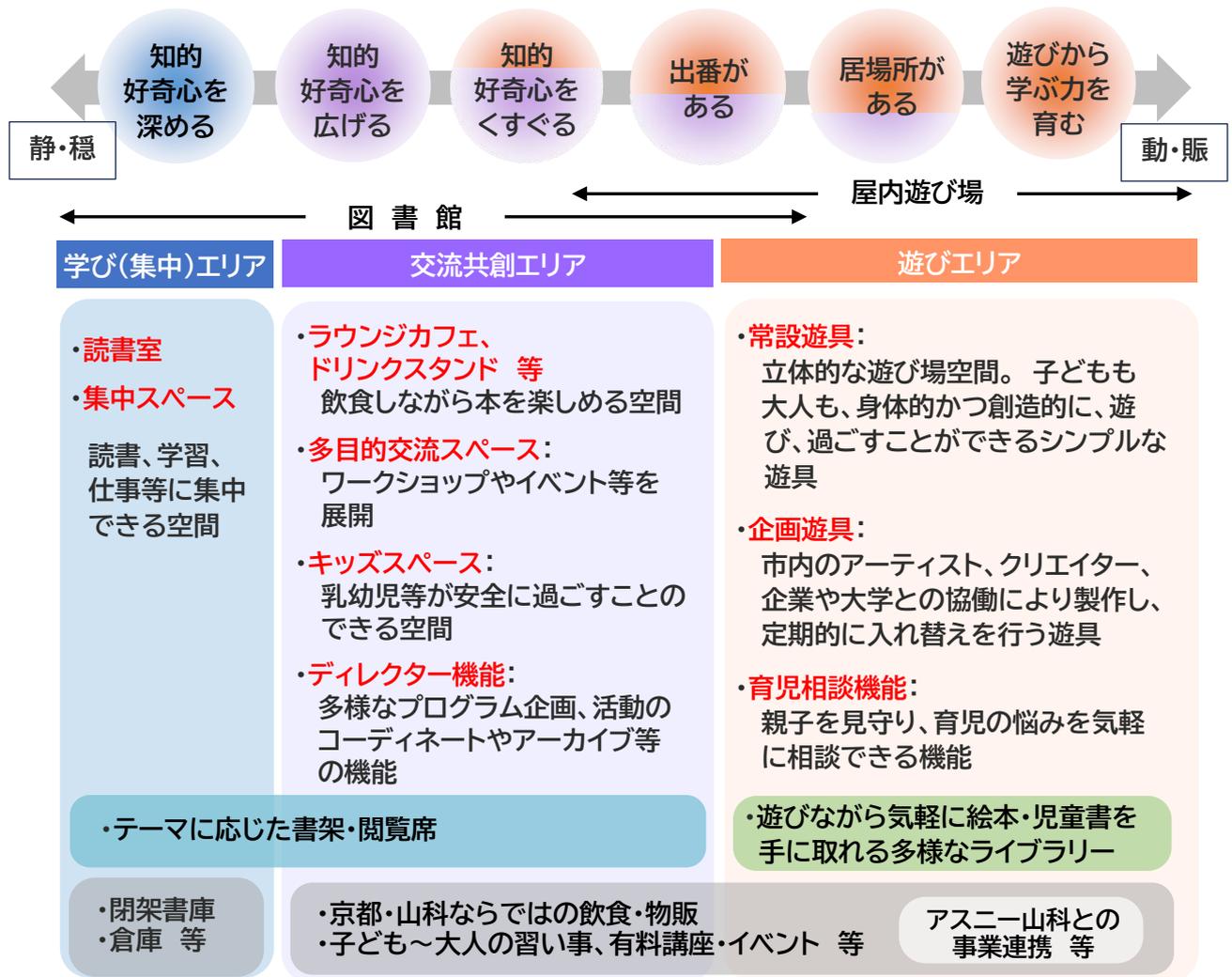
多様で多彩な人々が交ざり合い、
ゆるやかにつながる

2-3 本施設の主な機能

市民の利用シーンを 静・穏から動・賑、動・賑から静・穏と、ゆるやかなグラデーションとなるよう、遊びエリアと学び(集中)エリア、遊びと学びをつなぐ交流共創エリアを設けます。

また、定期的に入れ替えを行う企画遊具やディレクター機能など、多彩な市民ニーズに応えられるよう、絶えず変化し続ける運営を目指します。さらに、運営内容に応じて交流共創エリアのレイアウトを見直すなど、柔軟に変化できる空間づくりを目指します。

図表 2-1 本施設の主な機能イメージ及びコンセプトスケッチ



※上図はあくまで本施設のコンセプトイメージを示すものであり、平面プランを示すものではありません。

第3章 本施設の整備・運営の考え方

3-1 必要諸室・機能

本施設で想定する2つの機能である、屋内遊び場機能と、図書館機能の内容に基づき、遊びエリア・交流共創エリア・学び(集中)エリアを設け、それぞれについて必要諸室の方針を示します。

なお、遊びながら気軽に絵本・本を手にとれる空間とするなど、エリアをまたいだ機能配置や、屋内遊び場機能と図書館機能を一体的に整備・運営することを検討します。

また、京都市生涯学習総合センター山科(アスニー山科)をはじめ、近隣施設と連携した事業も検討します。

図表 3-1 本施設の必要な機能

エリア	概要	
 遊び エリア 交流共創 エリア 学び(集中) エリア	常設遊具	<ul style="list-style-type: none"> 子どもも大人も、身体的かつ創造的に、遊び、過ごすことができるシンプルかつ独創的・立体的な遊び場空間とします。 身体を動かす遊具はもちろん、静かに集中して遊べる遊具など、多様な遊具を設けることを検討します。
	企画遊具	<ul style="list-style-type: none"> 市内のアーティスト、クリエイター、企業や大学との協働による仮設遊具や遊びのプログラムを定期的に企画・展開するなどフレキシブルな遊び場空間とします。
	育児相談	<ul style="list-style-type: none"> 親子を見守り、育児の悩みを気軽に相談できる機能を検討します。(保育士等の配置など)
	ラウンジカフェ、ドリンクスタンド等	<ul style="list-style-type: none"> 飲食しながら本を楽しめる空間とします。
	多目的交流スペース	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップやイベント等を開催し、来館者等が交流できる空間とします。
	キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児等が安全に過ごすことができる空間とします。
	ディレクター機能	<ul style="list-style-type: none"> 多様なプログラムの企画、活動のコーディネートやアーカイブができるスタッフの配置を検討します。
	集中スペース	<ul style="list-style-type: none"> 本棚や可動壁等でゆるやかに仕切られ、個人が読書・学習・仕事等に集中できる空間とします。
<ul style="list-style-type: none"> 遊びながら気軽に絵本・本を手にとれる空間とします。 学び(集中)エリア、交流共創エリアそれぞれにテーマに応じた書架・閲覧席を設置します。 閉架書庫、倉庫、蔵書仕分け作業スペース等を設置します。 		

3-2 整備の基本方針

(1)前提条件の整理

①対象施設の概要

本施設は、ラクト B の5階・6階に所在し、令和 5 年に休館となるまでは、京都市ラクト健康・文化館として運営していました。ラクト B は、地下2～3階は駐車場、地下1階～地上4階はラクト山科ショッピングセンターとして営業しています。

所在地	京都市山科区竹鼻竹ノ街道町 91 番地
延床面積	50,220.92 m ² (公簿/ラクトB全体) 5 階部分 1,367.07 m ² 6 階部分 1,172.09 m ² 延床面積 2,539.16 m ²
建築年月日	平成 10 年 6 月 15 日(令和 5 年 4 月休館)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下 4 階付 9 階建
法規制	商業地域、防火地域、高度利用地区、31m 高度地区
建蔽率/ 容積率	80%/600%
(参考) 元ラクト 健康・文化館 の機能	<ul style="list-style-type: none">・ プール(スイミングプール(25m×5 コース)、リラクゼーションプール(寝湯・打たせ湯・ジャクジー)、幼児用プール、屋外デッキ等)・ コミュニティルーム(会議・集会・研修会・催事等市民交流スペース)・ フィットネス(スタジオ(156 m²:40 人収容)、スポーツジム(226 m²:70 人収容))・ バックヤード(エントランスホール、受付カウンター、ロッカー室、ベンダーコーナー、事務所等)

②施設計画

(ア) 動線計画

本施設が入居するラクト B は、地下1階北側に地下鉄山科駅から直結のエントランスがあり、利便性が高い一方で、地上5・6階に位置する本施設までのアクセスは、南側のエレベーター(地下1階は利用制限あり)及び階段からのみとなっています。

したがって、各階から本施設へのアクセスにあたっては、南側エレベーター及び階段への誘導を、視覚的に分かりやすいサイン等を用いて行うなど、本市やラクトB関係者と連携した取組が必要です。

なお、子どもを含めた多世代が利用する施設であることを踏まえて、各エリア利用者が極力錯綜しない安全な計画とし、ベビーカー利用者も含めて、バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮します。

また、図書館機能においては、市内の他の図書館からの図書の搬入出がしやすい動線計画とし、搬入用エレベーターが6階にはない点に留意する必要があります。

(イ) 機能配置計画

施設のコンセプトに基づき、屋内遊び場機能と図書館機能が一体性を持った平面計画とします。また、事業期間にわたり柔軟な運営ができるよう、多目的な諸室や可動壁等を活用するとともに、動かしやすい家具・備品等を使用します。

各階のエレベーター・階段からの出入口にロビー空間を設けます。

受付は出入口から視認しやすい位置に設置します。

遊びエリアを有料とする場合、有料エリアとそれ以外のエリアがわかりやすい平面計画とし、有料の遊びエリア利用者が利用できるトイレの設置を検討します。

(ウ) 設備計画

快適性や安全性、信頼性に優れ、省エネルギーや省力化、メンテナンス性等を十分に考慮し、環境に配慮した経済性の高い設備システムの構築を目指します。また、各機能に求められる性能が十分に確保され、周辺環境に対しても十分に配慮した計画とします。さらに、ランニングコストを低減させるために省エネルギーとなる設備計画を意識し、省資源、地球環境及び周辺環境にも配慮した計画とします。

設備スペースの規模は、主要機器・附属機器類の設置スペース、保守管理スペース、機器の搬入・搬出スペース等に留意して計画します。また、主要機器等の主配管は、保守性や更新性を考慮した適切な経路・空間に配慮した計画とします。

3-3 管理運営の基本方針

(1)開館日・開館時間

本施設の開館日と開館時間の方針は以下のとおりです。

図表 3-2 開館日と開館時間

項目	概要
開館日	<ul style="list-style-type: none">開館日は本施設全体で共通とする予定で検討します。ラクト B の休館日は休館します。土・日・祝日、春休み・夏休みや大型連休等の期間は休まず開館するなど、市民ニーズや民間事業者の提案を踏まえて開館日を検討します。
開館時間	<ul style="list-style-type: none">開館時間はエリアごとに設定する予定で検討します。遊びエリアは、子どもの利用時間を日中とすることを基本に、大人が利用できる時間帯を設ける等、市民ニーズや民間事業者の提案を踏まえて検討します。

(2)料金

本施設の入館料の方針は以下のとおりです。

図表 3-3 入館料の想定

エリア	入館料の方針	料金体系の方針
遊びエリア	検討中	<ul style="list-style-type: none">今後、市民ニーズを踏まえて慎重に検討します。有料化する場合には、有料化するエリアの範囲を含め、市内料金・市外料金の設定や回数券等、子育て世帯が利用しやすい料金体系について民間事業者の提案を受けることを想定します。
交流共創エリア・学び(集中)エリア	無料	<ul style="list-style-type: none">交流共創エリア及び学び(集中)エリアは、図書館機能にあたるため、入館料は無料とします。民間事業者による運営業務(または自主事業)として、無料(または有料)のプログラム等を提供することを想定します。

(3)運営体制

本施設では、複合施設としての特性を十分に活かせるよう、施設全体での効果的・効率的な運営を目指します。そのために、屋内遊び場機能と図書館機能の各機能について、サービス向上に繋がる知識や経験を持ったスタッフを配置します。運営者は、利用者の見守りの他、遊びや運動の促進や学びの促進、交流の促進に繋がるような役割も担い、個人のホスピタリティの発揮が、多様な交流を生み出す施設の実現に寄与する運営を目指します。

また、本施設では、京都市生涯学習総合センター山科(アスニー山科)を含め、近隣施設とも連携した事業展開を行うことから、円滑な連携を可能とする体制の構築を目指します。

第4章 事業手法

4-1 事業手法の比較評価方針

(1)比較評価の方法

本事業の事業手法の検討では、定性評価と定量評価を行います。

定性評価では、事業の特徴から、重視すべき項目を設定し、事業者に対して行った参画意向の調査の結果も踏まえ、各方式について評価します。

定量評価では、従来方式で事業を行う場合に対して、後述する官民連携事業の場合、どの程度財政負担を軽減できるか算出し、評価します。

(2)比較評価の対象

官民連携事業には、様々な事業手法があります。

本事業で比較評価の対象とする事業手法は以下のとおりです。

図表 4-1 比較評価の対象とする事業手法の概要イメージ

	PFI方式	DBO方式	DO方式
設計・工事監理	一括発注	一括発注	一括発注
施工			個別発注
維持管理・運営			
スキーム図			
	DB方式	従来方式	
設計・工事監理	一括発注	個別発注	
施工		個別発注	
維持管理・運営		個別発注(指定管理者として指定)	個別発注(業務委託)
スキーム図			

①PFI方式

PFI方式では、複数の民間事業者がグループを組み、本事業のために特別目的会社(SPC)を設立して事業に参画します。SPCが設計・整備・管理運営すべての業務を一括で受注し、構成員の各企業に業務を発注します。資金は民間事業者が調達することを基本とし、SPCが全体のプロジェクトマネジメントを担って事業を推進します。

②DBO 方式

民間事業者が設計・整備・管理運営(Design、Build、Operate)を一括して担います。①の PFI 方式と異なる点は、SPC を設立せず、市は設計・整備・管理運営企業のそれぞれに業務を発注する点と、市が資金調達を行う点が挙げられます。

③DO 方式

民間事業者が設計(Design)と管理運営(Operate)を担いますが、整備は別途発注します。

④DB 方式

設計(Design)と整備(Build)を一括して民間事業者が行う方式です。管理運営は別途発注します。

⑤従来方式

市が設計・整備・管理運営を分離して発注する、従来型の手法です。

4-2 官民連携事業及び本事業の特徴を踏まえた評価項目

(1)官民連携事業の特徴

官民連携事業は、いわゆる官と民が協力して公共サービスの提供等を行う事業形態であり、期待できる主な効果としては、民間事業者の専門知識や創意工夫の活用による効率的かつ安定的なサービス提供、財政負担の平準化等があげられます。

官民連携事業の効果を最大限発揮するためには、民間ノウハウの発揮余地が大きいこと、事業の安定性・収益性が確保されること、市の財政負担の軽減が見込まれるなど、官民連携事業の有効性、安定性及び効率性が高いといった観点から事業手法を検討することが重要です。また、官民連携事業では、一括発注、性能発注により、事業実施における民間の創意工夫を引き出します。

①一括発注

従来方式では、施設の設計・整備・管理運営の各業務を分離して、それぞれ発注するのに対し、官民連携事業では、複数の業務を一括で発注します。一括発注により、事業者間での業務範囲の調整が可能となるため、民間事業者の創意工夫の余地が大きくなり、設計・整備や管理運営業務のコスト削減や、サービスの品質向上につながりやすくなります。すべての業務を一括で発注する場合や、一部の業務を一括で発注する場合があります。

②性能発注

従来方式では、市の定めた仕様のとおりに、民間事業者が事業を実施する仕様発注方式が採用されるのに対し、官民連携事業では、市が求める性能を満たす仕様を、民間事業者が提案する、性能発注方式が採用されます。性能発注により、民間事業者の創意工夫が発揮され、性能・デザイン・コストのバランスを確保しやすくなります。

(2)本事業の特徴

本事業は、本施設のコネプト「未来に向けて絶えず変化し続ける 交流×遊び×学び拠点」の実現を目指し、遊び場と図書館の機能を融合させた、前例の少ない複合施設を目指すものです。既存施設の改修を前提とすることから、様々な制約が生じますが、機能を融合させ、より良い施設としていくためには、従来の公共施設整備の枠組みにとどまらない、独自性のある空間・遊具設計や利用者動線の工夫、両機能を調和させる運営ノウハウが求められます。また、施設の役割や価値を地域に根付かせるためには、事業の安定性・継続性を重視し、持続可能な運営を目指すことも必要です。さらに、絶えず変化し続ける施設とするためには可能な限り事業を効率化し、負担を軽減することが望ましいです。

(3)定性評価の項目

本事業の特徴を踏まえ、下表のとおり定性評価の3つの視点を定めました。さらに、3つの視点を7つの評価項目に細分化し、官民連携事業の特徴も踏まえ、定性評価を行います。

図表 4-2 民間活力の導入及び本事業の特徴を踏まえた定性評価項目

定性評価の視点	定性評価項目
A 官民連携事業の有効性 (民間事業者のノウハウ発揮余地)	①遊具・内装デザイン企業のノウハウ発揮余地
	②その他整備を担う企業のノウハウ発揮余地
	③(主に企画提案～設計段階における) 運営企業のノウハウ発揮余地
B 官民連携事業の安定性・継続性	④(主に運営段階における) 事業全体の安定性・継続性
	⑤多様なコンテンツの導入しやすさ
C 官民連携事業の効率性	⑥事業者のプロジェクトマネジメントへの関与
	⑦財政負担平準化の効果

4-3 定性評価の結果

(1)各項目の定性評価結果

A) 官民連携事業の有効性（民間事業者のノウハウの発揮余地）

①遊具・内装デザイン企業のノウハウ発揮余地

本事業は高い品質の遊具や、独自性の高い遊具・内装デザインが求められるため、遊具・内装デザイン企業(遊具や内装の設計及び整備を担う企業)のノウハウの発揮余地が大きい発注方法とすることが望ましいです。

PFI 方式、DBO 方式、DB 方式は、性能発注する方式であるため、遊具・内装デザイン企業の提案の自由度が高く、また設計・整備を一括で発注することで、設計から整備に至るまで遊具・内装デザイン企業の意向を一貫させやすく、優位性があります。

②その他整備を担う企業のノウハウ発揮余地

本事業は既存施設の内装改修が基本となり、また、新築と比較すると整備を担う企業のノウハウ発揮余地は大きくありません。一方、建物や設備の改修工事にあたっては様々な制約があることから、事業者のノウハウが一定求められるため、性能発注とすることが望ましく、また、設計に整備を担う事業者のノウハウが反映されるよう、設計・整備の一括発注が望ましいです。

設計・整備を一括で性能発注する PFI 方式、DBO 方式、DB 方式は、整備を担う企業のノウハウの発揮余地が比較的大きいです。

③（主に企画提案～設計段階における）運営企業のノウハウ発揮余地

本施設のコンセプト「未来に向けて絶えず変化し続ける 交流×遊び×学び拠点」を実現するには、特に管理運営企業の企画力等のノウハウを発揮することが求められます。よって管理運営事業者の提案余地が大きい発注方法とすることが望ましいです。

設計に管理運営企業の意見を反映するため、設計と管理運営が一括で性能発注される PFI 方式、DBO 方式、DO 方式が望ましいといえます。

B) 官民連携事業の安定性・継続性

④（主に運営段階における）事業全体の安定性・継続性

本施設のコンセプト「未来に向けて絶えず変化し続ける 交流×遊び×学び拠点」を実現するには、利用者のニーズに継続的に対応し、施設の役割や価値を地域に根付かせるため、管理運営事業者が長期的な視点を持つ必要があります。

PFI 方式と DBO 方式は、事業期間が長期に設定しやすく、安定的・持続的なサービス提供が見込まれます。さらに PFI 方式の場合は、SPC の設立により、構成企業が倒産した場合でも本施設に影響が及ばないよう、倒産リスクを分離することが可能となり、事業の安定性がさらに高まります。

⑤多様なコンテンツの導入しやすさ

本事業は、飲食とともに本を楽しめる空間創出や、大人も子どもも学び遊ぶことができる多様なコンテンツ展開を期待しており、収益事業を含む事業者のコンテンツ提案も重要といえます。また、施設規模が小さい改修事業のため、余剰床への大規模な投資を伴う収益事業は期待しにくいものの、多目的空間の活用によるハード・ソフトに係る多様なコンテンツの提案余地は十分にあります。

事業期間が比較的長期となる PFI 方式、DBO 方式では、企画や投資回収にかける時間を長期間確保できるため、望ましいといえます。

C) 官民連携事業の効率性

⑥事業者のプロジェクトマネジメントへの関与

プロジェクトマネジメント(個別業務を担う企業に指示し、品質、コスト、スケジュール等を監督する役割)を市ではなく民間事業者側が担う場合、市の労力が削減されるとともに、民間事業者の整備・運営等に係る専門知識や経験を活かしたマネジメント能力が発揮されます。

PFI 方式では、SPC がプロジェクトマネジメント業務を担い、グループを構成する各企業に業務を発注するため、優位性があります。

⑦財政負担平準化の効果

財政負担の平準化とは、公共事業などで一時期に多額の支出が集中しないように、支払いを複数年に分散することです。

PFI 方式で民間が資金を調達する場合、年度ごとの市の支出の大きな変動が抑えられ、安定的な財政運営につながります。一方で、DBO 方式など公共が資金調達をする場合においても、地方債(地方公共団体が行う借入)を活用することで、財政負担平準化が図られます。

(2)定性評価まとめ

定性評価の結果として、本事業では、PFI 方式と DBO 方式に最も優位性があり、次いで DO 方式、DB 方式の順に有力であると考えます。

図表 4-3 定性評価の結果

評価項目	PFI	DBO	DO	DB	従来
遊具・内装デザイン企業のノウハウ発揮余地	高	高	中	高	低
その他整備を担う企業のノウハウ発揮余地	中	中	低	中	低
(主に企画提案～設計段階における)運営企業のノウハウ発揮余地	高	高	高	中	低
(主に運営段階における)事業全体の安定性・継続性	高	中～高	中	中	低
多様なコンテンツの導入しやすさ	高	高	中	中	低
事業者のプロジェクトマネジメントへの関与	高	中	中	中	低
財政負担平準化の効果	中	中	中	中	中
事業者の参画意向(後述)	低	高	中	低～中	低
定性評価	◎	◎	○	△	×

4-4 定量評価と概算事業費

(1) 定量評価の方法

定量評価では、従来方式における財政負担額を基準とし、官民連携事業の各方式によって、どの程度財政負担の軽減が見込めるか、試算します。定量評価の対象は、定性評価の対象と同じく、PFI方式、DBO方式、DO方式、DB方式とし、管理運営期間は、事業者による安定的な運営と中長期的な計画によるノウハウの蓄積・人材育成等を考慮し、15年として設定します。

今回定量評価において算出するVFMとは、支払い(Money)に対して最も価値の高いサービス(Value)を供給しようとする考え方を指します。VFMの算出方法は以下の式のとおりで、従来の方式で公共事業を実施した場合の公共財政負担額(PSC)に対する、官民連携事業で実施した場合の公共財政負担額(LCC)の割合によって算出します。

$$VFM = (PSC - \text{官民連携事業のLCC}) \div PSC$$

(2) 概算事業費

① 整備費

通常の発注方式(従来方式)による整備費(設計監理・改修費)の概算費用は以下のとおりです。積算にあたっては、国が定める工事費算定の基準や、他都市の類似施設の整備費を参考にするなどして算出しています。

なお、整備費は本構想策定時点での概算であり、今後、施設内容や施設構成の変更、建設物価の変動等により変動する可能性があります。

整備費 約25.0億円

※物価上昇率は加味していません。

② 管理運営費

通常の発注方式(従来方式)による管理運営費は以下のとおりです。積算にあたっては、人件費や事務費、事業費、維持管理費、その他必要経費を、他都市の類似施設の事例や、想定される事業内容から算出しています。

なお、管理運営費は本構想策定時点での概算であり、今後の管理運営体制の検討や実際の運営方法、物価変動等により、変動する可能性があります。

管理運営費 約24.6億円(15年間の総額)

※ラクトB 共用部分の管理費及び計画修繕費は含みません。

(3)定量評価の結果

VFMの試算結果は以下のとおりとなっており、国が示すガイドライン等に基づき、事業期間や現時点の概算事業費等をもとに公共財政負担額を算定しています。

DBO方式のVFMが10.5%と算出され、最も財政負担が軽減されると見込まれる結果になりました。また、他の官民連携事業の方式でも、一定の費用削減効果が見込まれます。

図表 4-4 定量評価の結果

	従来方式	PFI方式	DBO方式	DO方式	DB方式
公共負担額 (千円、税込、 現在価値換算)	4,406,000	4,234,000	3,942,000	4,157,000	4,213,000
VFM	—	3.9%	10.5%	5.6%	4.4%

4-5 事業者の参画意向

本事業を官民連携事業として実施するための意見聴取を目的として、22社の企業に意向調査を実施しました。

回答いただいた多くの企業が、本事業でのノウハウ発揮余地等を理由に、本事業への関心を示しました。事業手法についてはDBO方式が望ましいと回答した企業が最も多く、次いでDO方式、DB方式の順で望ましいと回答した企業が多い結果となりました。DBO方式が望ましい理由としては、「設計・整備・管理運営を一連で実施することから、全体をマネジメントし最適化することができ、コスト縮減・工期短縮等ができるため。」や「設計段階から運営事業者の意見を反映させることでより良い施設にすることができるため。」という理由がみられました。

図表 4-5 本事業への関心

大変関心がある	関心があるが、 今後検討が必要	あまり関心がない
11社	9社	2社

図表 4-6 望ましい事業手法の回答結果（複数回答可）

PFI方式	DBO方式	DO方式	DB方式	従来方式
3社	14社	8社	6社	5社

図表 4-7 事業者意見を踏まえた各事業手法のメリット・デメリット※

	メリット	デメリット
PFI 方式	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階から運営事業者のノウハウや意見を反映させることで、利用者目線を反映できる等、より良い施設にすることができる。 設計・整備・運営と一連で実施することから、全体をマネジメントし最適化することができ、コスト縮減・工期短縮・品質管理等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物価上昇等の影響を受けて、全体予算が収まらず、事業断念や事業体組成が困難となる等のリスクがある。 上記リスクを鑑み慎重な姿勢の企業が増えており、SPC を組成するハードルが高い。 資金調達を含めた提案書作成に必要な労力が大きく、また、金融機関等との調整が多い等、SPC の設立・管理等、事業者としての事務負担が最も大きく煩雑。
DBO 方式	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階から運営事業者のノウハウや意見を反映させることで、利用者目線を反映できる等、より良い施設にすることができる。 設計・整備・運営と一連で実施することから、全体をマネジメントし最適化することができ、コスト縮減・工期短縮・品質管理等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物価上昇等の影響を受けて、全体予算が収まらず、事業断念や事業体組成が困難となる等のリスクがある。 上記リスクを鑑み慎重な姿勢の企業が増えており、コンソーシアムを組成するハードルが高い。
DO 方式	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階から運営事業者のノウハウや意見を反映させることで、利用者目線を反映できる等、より良い施設にすることができる。 PFI 方式や DBO 方式に比べ、事業断念や事業体組成が困難となる可能性は低く、事業者は参加しやすい。 	—
DB 方式	<ul style="list-style-type: none"> 設計・整備を一連で実施することから、全体をマネジメントし最適化することができ、コスト縮減・工期短縮等ができる。 	—
従来方式	<ul style="list-style-type: none"> 組織体の組成を前提としないため、事業者は参加しやすい。 	—

※ 事業者意向調査の御意見を参考に、事業者視点からみた各手法のメリット・デメリットを説明したものです。

4-6 総合評価

定性評価や定量評価の結果及び事業者の参画意向を踏まえると、DBO 方式が最も優位であり、遊具・内装デザイン企業のノウハウ発揮余地など、本事業の性質とも合致すると考えられるため、本施設の整備・運営手法については、DBO 方式を導入する予定です。

第5章 事業スケジュールと今後の検討事項

(1)事業スケジュール

DBO方式を想定した事業スケジュールは以下のとおりです。

令和8年度は、本事業の事業条件や事業費等の精査を行い、公募書類を取りまとめます。令和9年度に事業者の募集及び選定を行い、令和10年度から改修設計・施設整備に着手し、令和12年度内の開館を目指します。

なお、スケジュールは今後の検討により変更する可能性があります。

令和 8年度	設計・整備・管理運営を一括で担う民間事業者の公募及び選定に向けた準備(要求水準書・実施方針の作成等)
令和 9年度	民間事業者の公募・選定、契約締結
令和10 ～11年度	改修設計・施設整備
令和12年度	施設の開館 (予定)

(2)今後の検討事項

- ・ 来年度以降、事業者募集に向けて、事業者の創意工夫に満ちた提案を引き出すことができる業務内容や事業条件を検討します。本市として重要と考える内容を要求水準として整理するとともに、合理的で適切なリスク分担等を整理して公表する予定です。
- ・ 事業化に向けた詳細検討を進めるにあたり、地域団体や大学、企業、周辺施設など多様な主体との具体的な連携内容や体制についても検討を深めるとともに、特に改修工事に向けては、地域にお住まいの方をはじめ、ラクトB関係者等に対し、引き続き丁寧な説明を行っていきます。
- ・ 京都市図書館のランドデザインとして、(仮称)図書館パブリック「テラス」ランドデザインの策定を令和8年度以降に予定しています。本構想はランドデザイン策定に先駆けて策定するものですが、今後事業化に向けて詳細検討を進めるにあたり、ランドデザインの考え方を十分に反映していきます。

参考資料

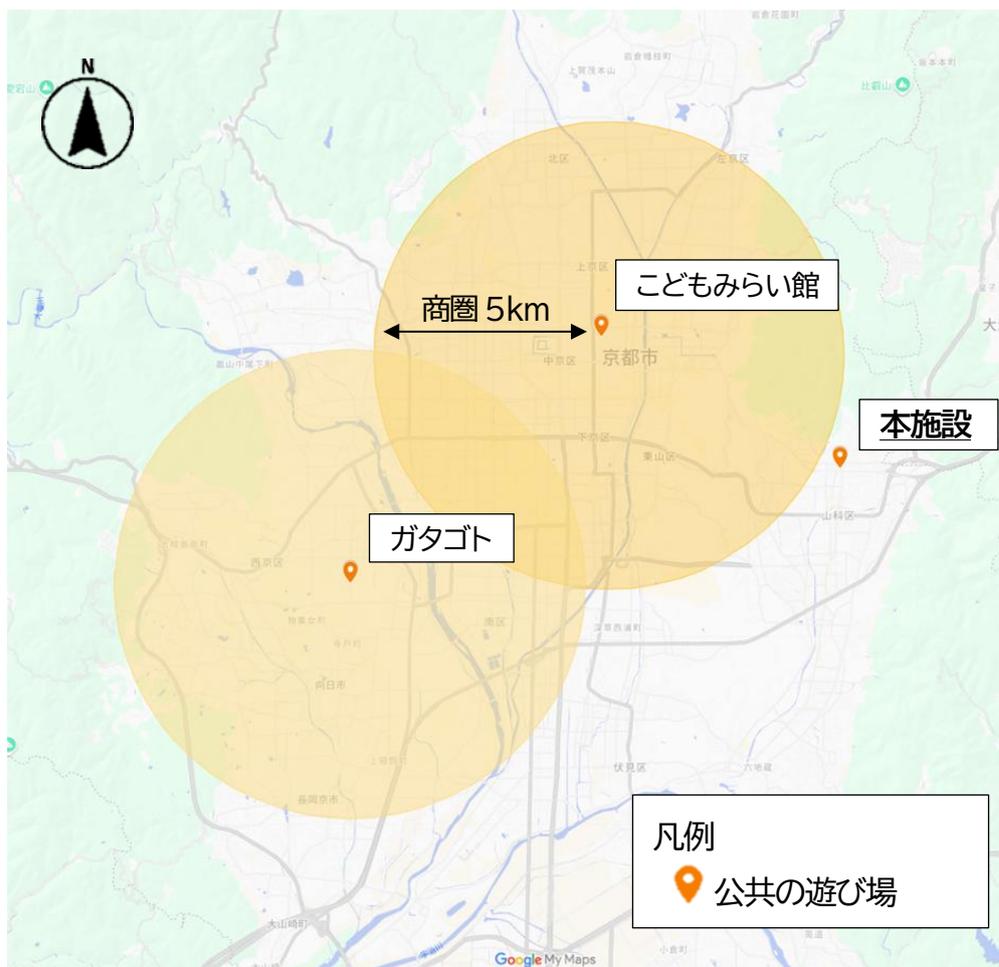
○元京都市ラクト健康・文化館の利用者数

年度	H25	H26	H27	H28	H29
プール・フィットネス利用者数（人）	171,457	159,458	175,591	177,656	180,335

年度	H30	R1	R2	R3	R4
プール・フィットネス利用者数（人）	176,513	150,115	89,922	-※	-※

※ 施設利用休止期間 プール・フィットネス：R3.4～（全面休止：R5.4～）

○京都市が運営する屋内遊び場の分布状況



○「京都市はぐくみプラン<2025-2029>」意見募集（抜粋）

意見者数：621人

意見総数：1,898件（令和6年12月22日まで時点）



①子ども・若者、子育てにやさしい「こどもまんなか社会」づくり

- ・雨の日でも遊べる公園がほしい。
- ・雨の日でも外で遊びたい。
- ・全天候型の屋内施設が少ない。

③「居場所」と「出番」

- ・中学生になると、家以外にも自習できる公共施設が近所にあるといい
- ・図書館で勉強したり、ずっといられたりしたら嬉しい。

○「新京都戦略（骨子）」意見募集（抜粋）

意見者数（個人・団体）：536

意見総数：1,853件



～すべての人に「居場所」と「出番」がある
「変えたい京都」「変えたい新京都」の実現～

<②公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト>

(1)プロジェクトに対する意見

- ・公園や図書館等のパブリックテラスを押し進めてほしい。
- ・図書館の多機能化など、誰もが気軽に利用でき、学習や地域交流の場となるような公共空間をもっと拡大してほしい。
- ・図書館の多機能化の前に、まずは図書館本来の機能を強化すべき。
- ・新たな価値や「気づき」を得られる場とするには、カフェや図書館といった、従来の機能にとらわれず、自然、アート、文化と融合させた空間づくりが必要である。

など

<⑨地域の「絆」で支え合う子育て応援プロジェクト>

(1)プロジェクトに対する意見

- ・子どものための図書館やインクルーシブ遊具のある公園など、赤ちゃんや幼児が遊べる無料の施設を整備してほしい。
- ・子育て世帯が互いに支え合える仕組みや交流拠点を増やしてほしい。
- ・子育てを応援したい高齢者が料理教室や子育て支援などで若い世代と交流ができるようにしてほしい。
- ・まずは住みやすく、子育てしやすい地域づくりをみんなで始める必要がある。

など

○「meet us山科-醍醐」意見募集（抜粋）

意見者数：1,309人

意見総数：1,580件



<子どもの遊び場>

- ・駅周辺で雨の日でも子どもが遊べる屋内施設の整備を進めてほしい。
- ・アクセスの利便性を考えながら、子どもが安心して遊べる施設をつくってほしい。
- ・電車に乗っていききたいと思える子どもが遊べる施設で、かつ買物もできたり、親子で行けるカフェがあると良い。 など

<図書館・文化施設>

- ・まちづくりの拠点として、魅力ある図書館を山科につくってほしい。
- ・公有地を活用して、図書館を拡充してほしい。
- ・緑豊かな公園と隣接した図書館、フリースペース、アートのスペース、調理室、マルシェなどができる公共施設があれば、人が訪れ、活性化するのは。 など

○「京都市の新しい図書館構想に関する市民意識調査」意見募集（抜粋）

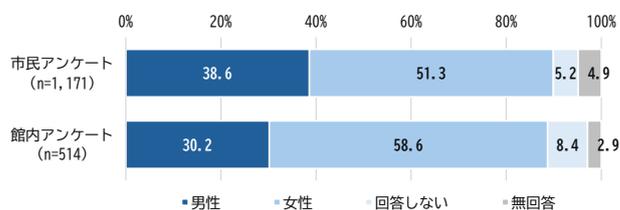
サンプル数：1,685（令和7年9月5日まで時点）

（市民アンケート：1,172 サンプル 館内アンケート：514）

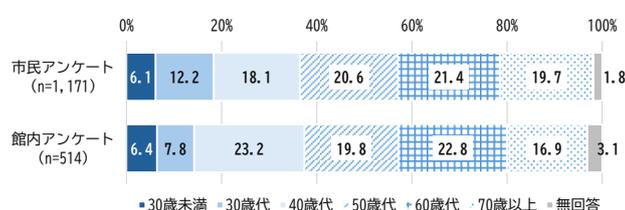


<回答者の属性> (%)

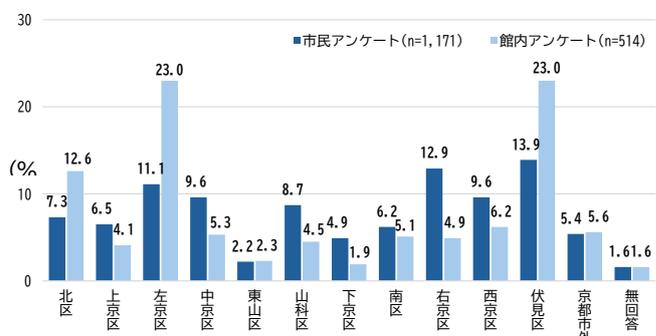
① 性別



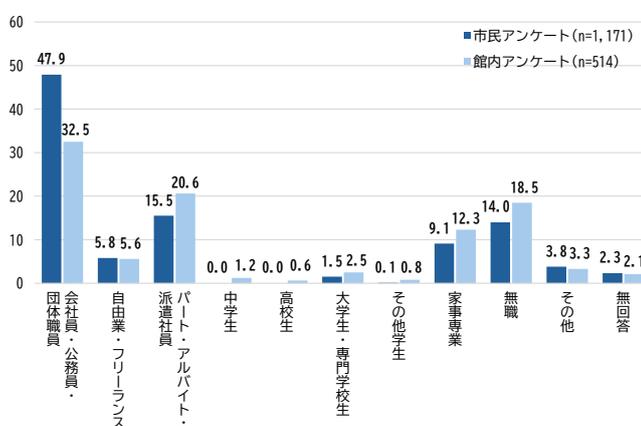
② 年齢



③ 居住地

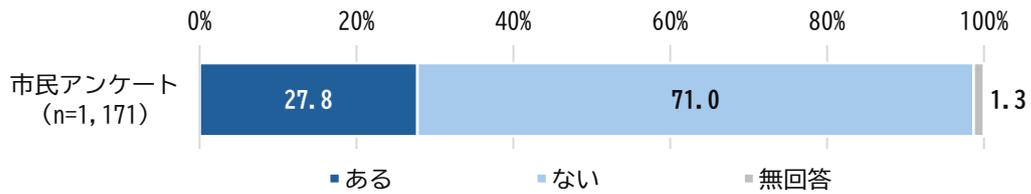


④ 職業

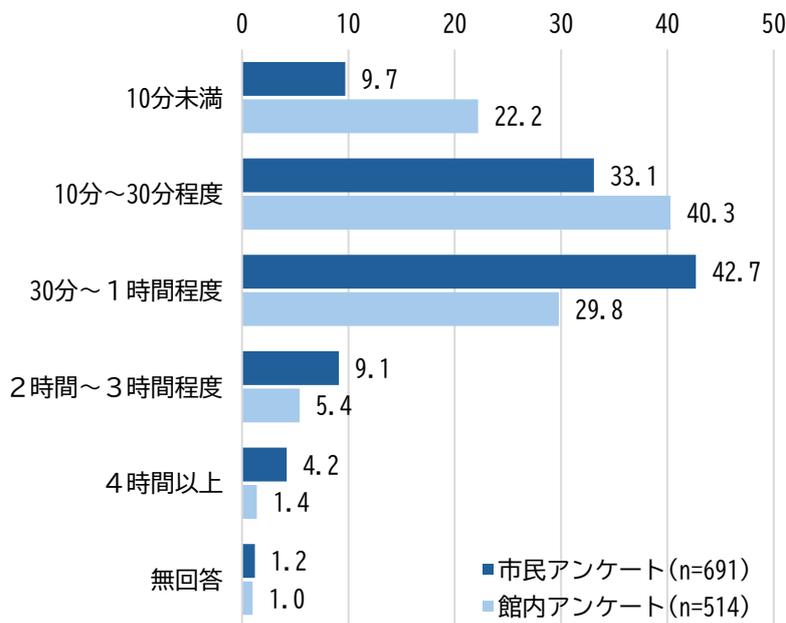


<全体>

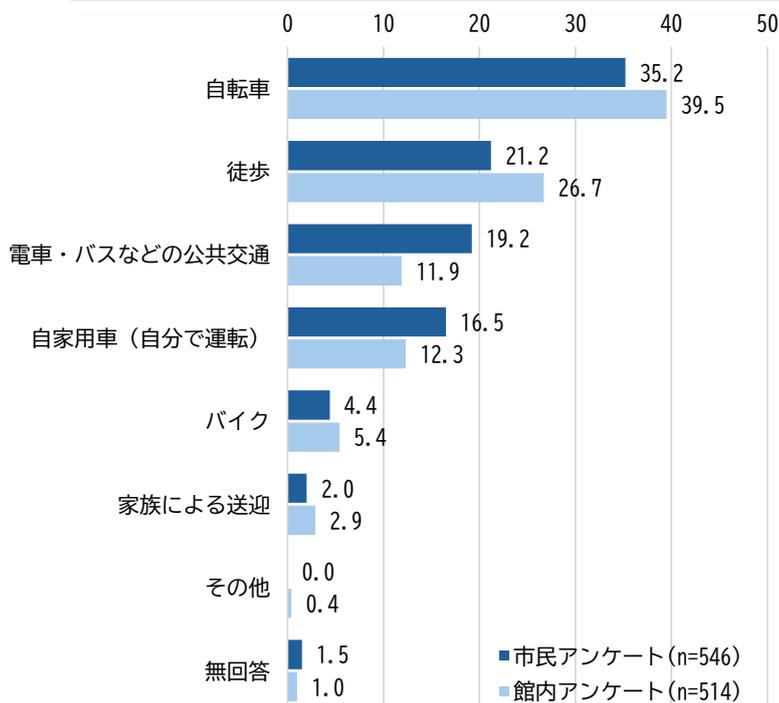
図書館をサードプレイスと感じることの有無



図書館の滞在時間 ※直近5年間で京都市図書館の利用がある人のみ

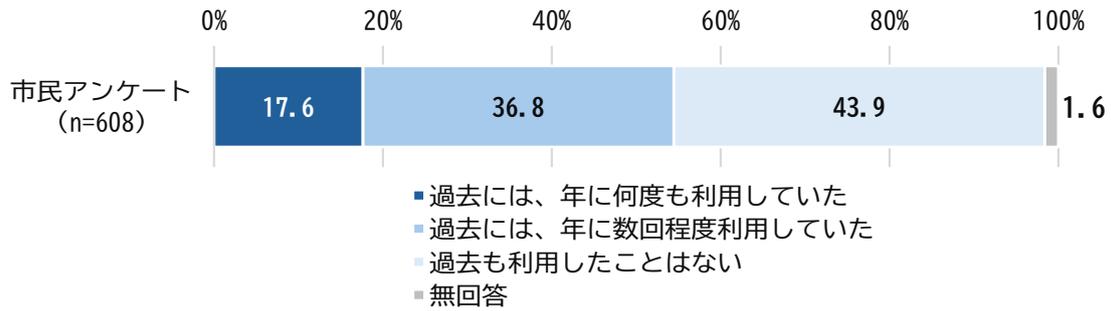


図書館へのアクセス方法 (複数回答可) ※直近5年間で京都市図書館の利用がある人のみ



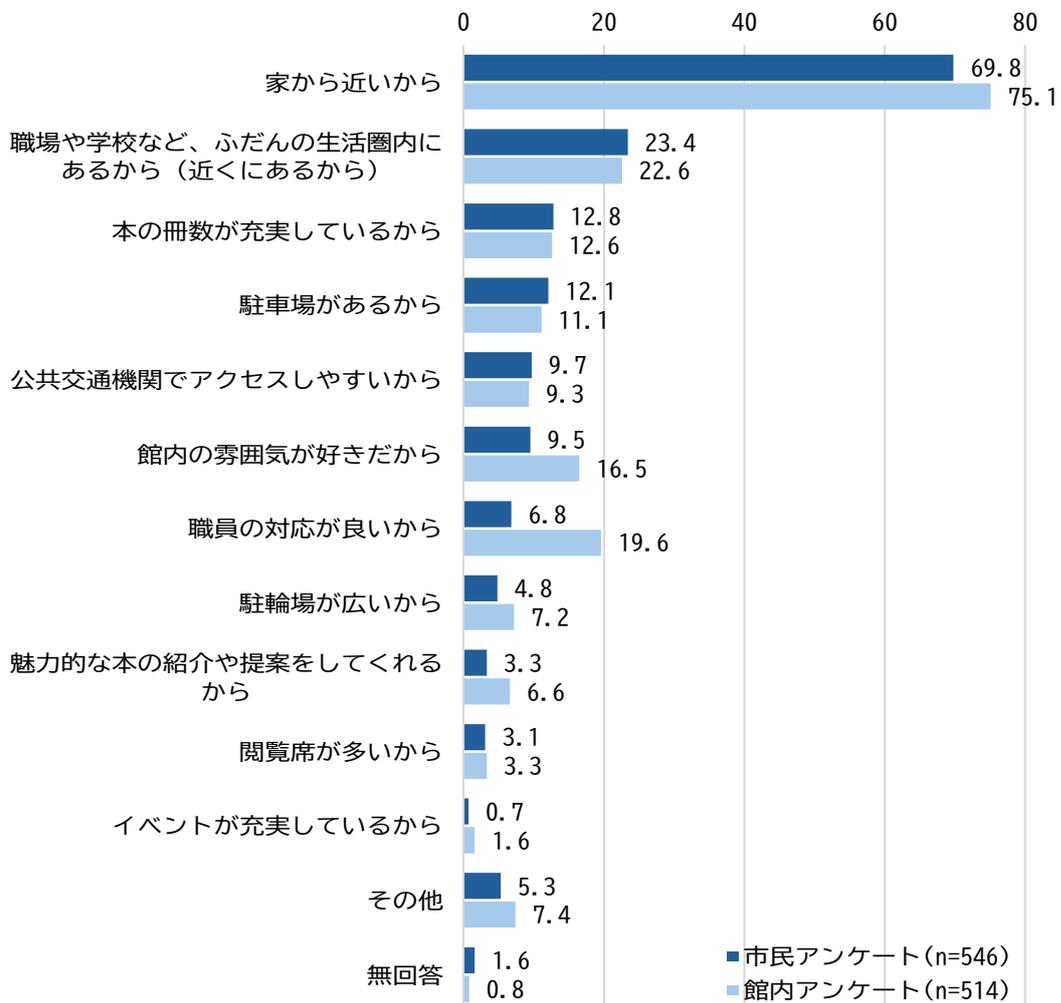
京都市図書館の過去の利用有無

※過去5年間で図書館の利用がない人及び京都市図書館をあまり利用していない人のみ



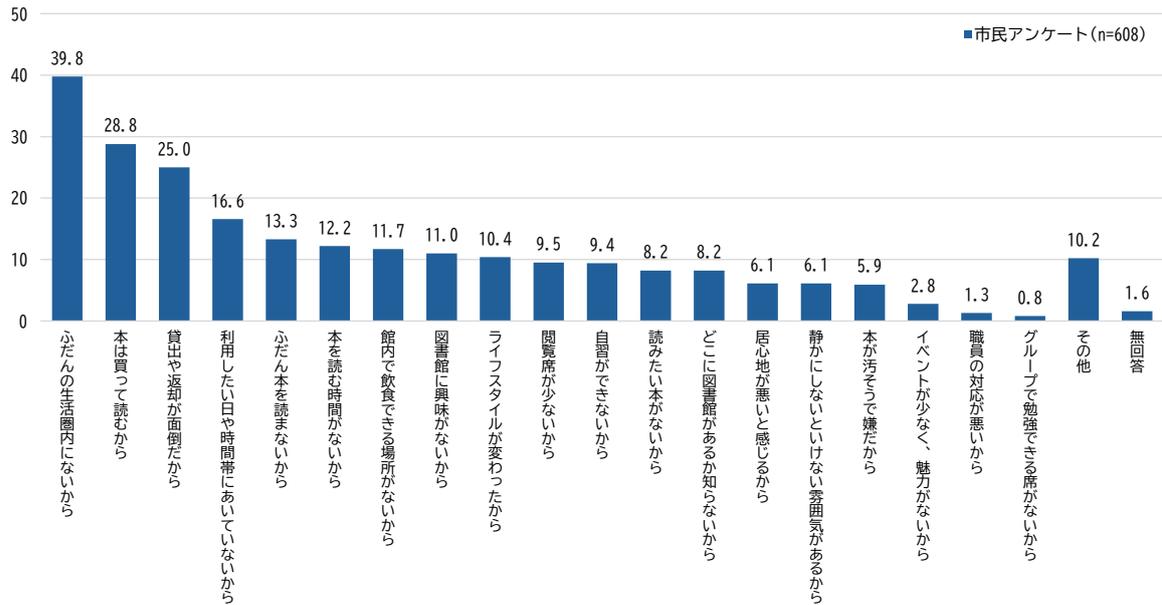
図書館をよく利用する理由（複数回答可）

※直近5年間で京都市図書館の利用がある人のみ



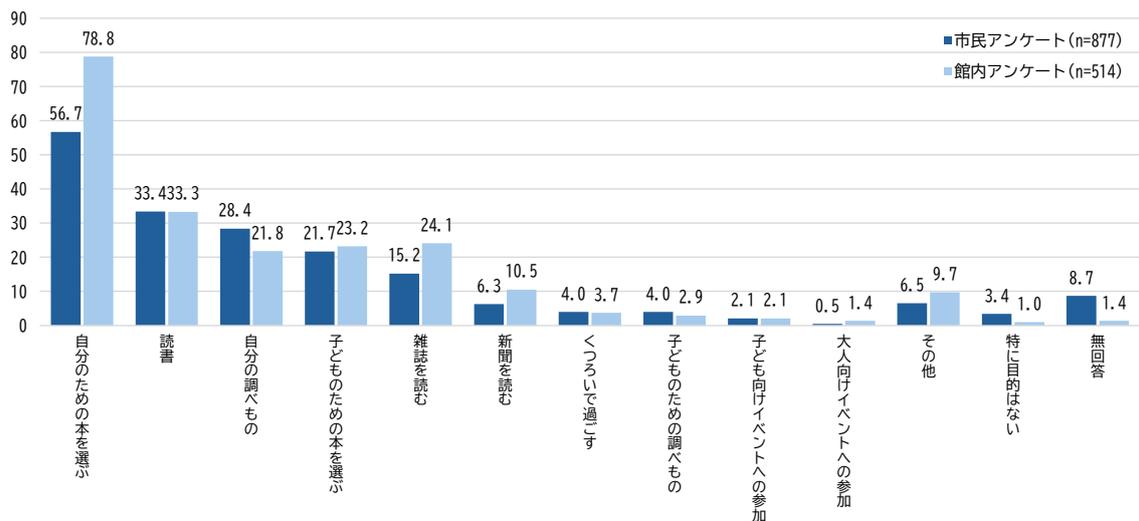
京都市図書館を利用しない理由

※過去5年間で図書館の利用がない人及び京都市図書館をあまり利用していない人のみ



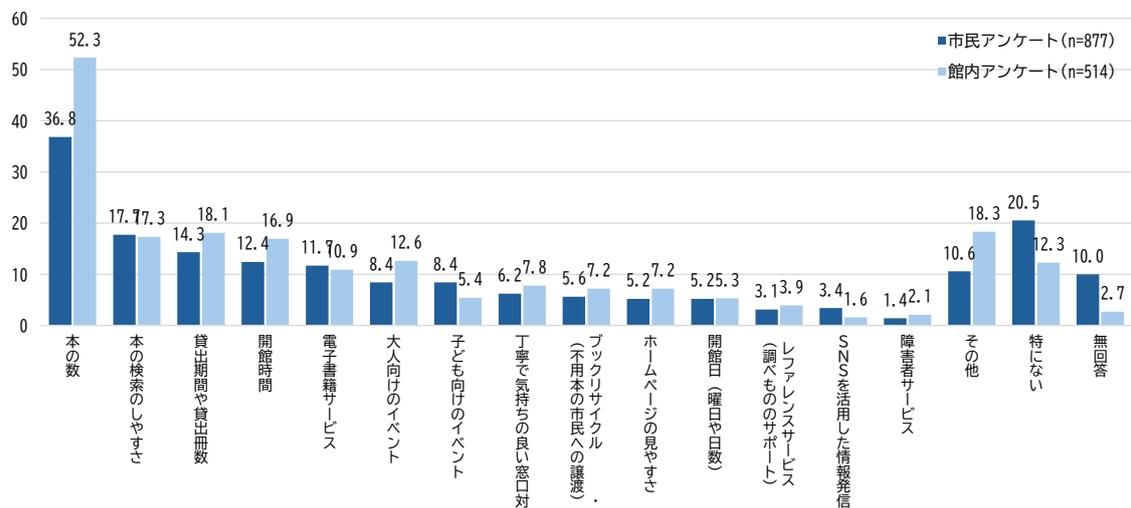
京都市図書館の利用内容（複数回答可）

※京都市図書館の利用がある人のみ



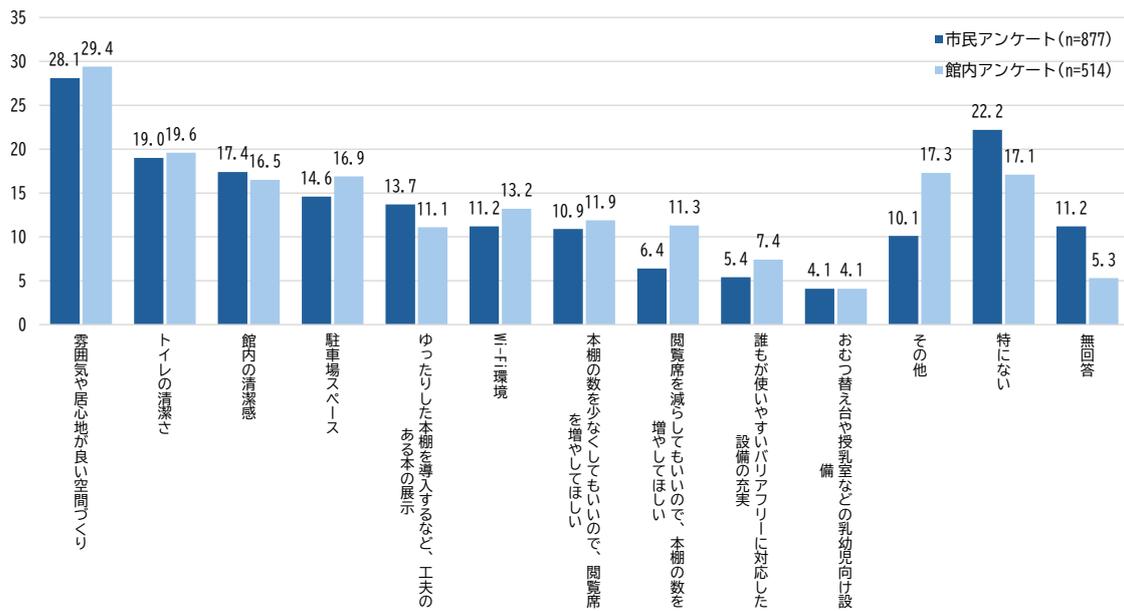
京都市図書館で充実してほしいサービス（複数回答可）

※京都市図書館の利用がある人のみ

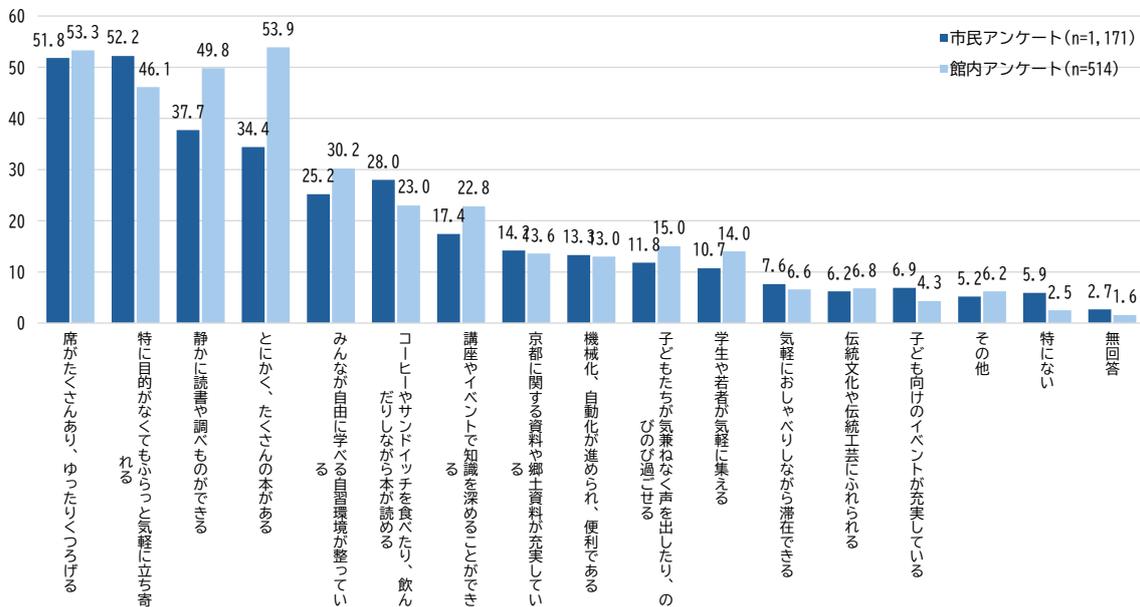


京都市図書館の設備で優先して改善してほしいこと（複数回答可）

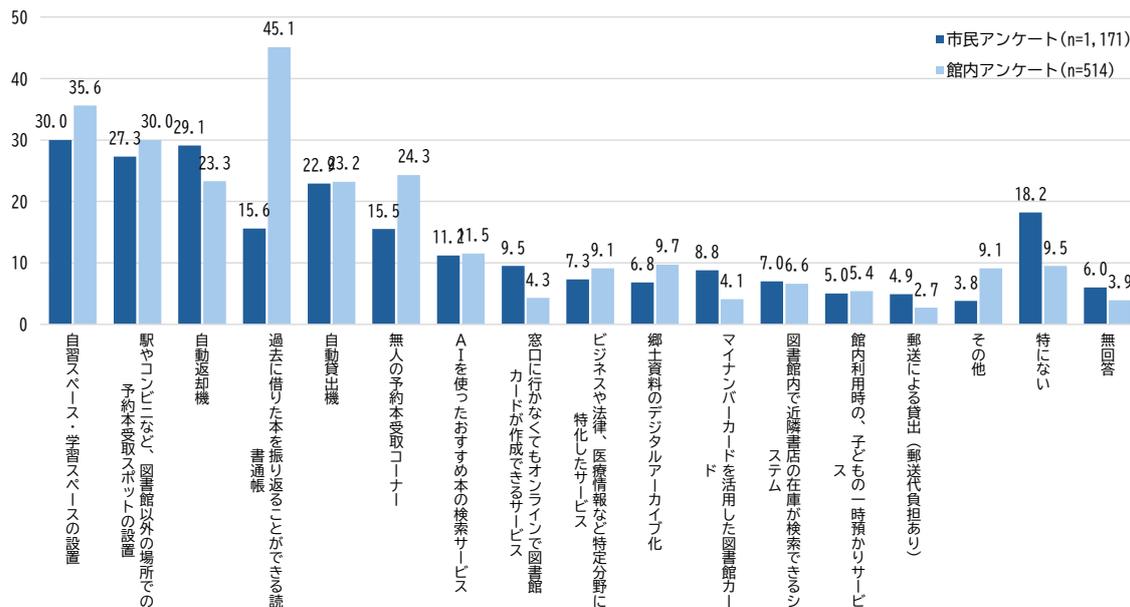
※京都市図書館の利用がある人のみ



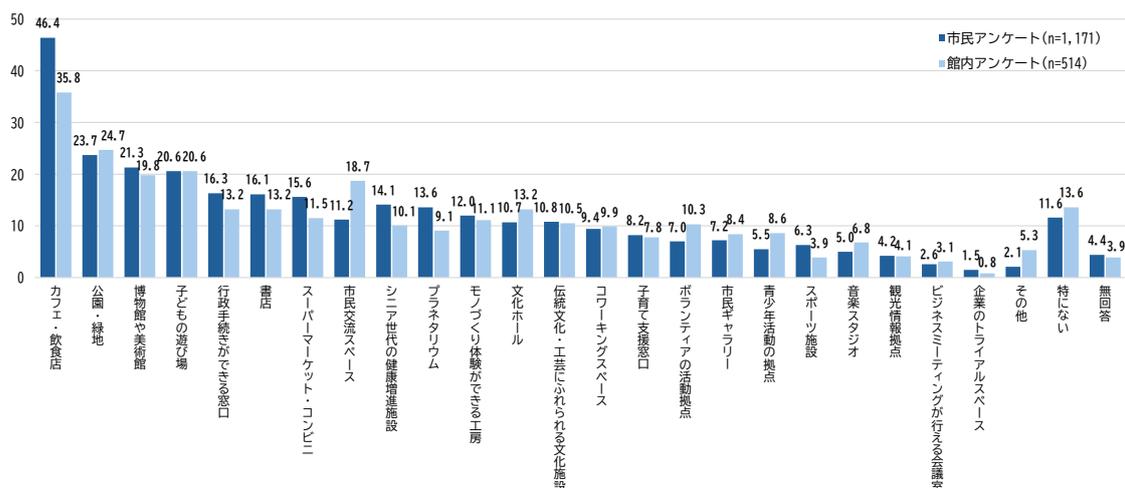
行ってみたい図書館の内容（複数回答可）



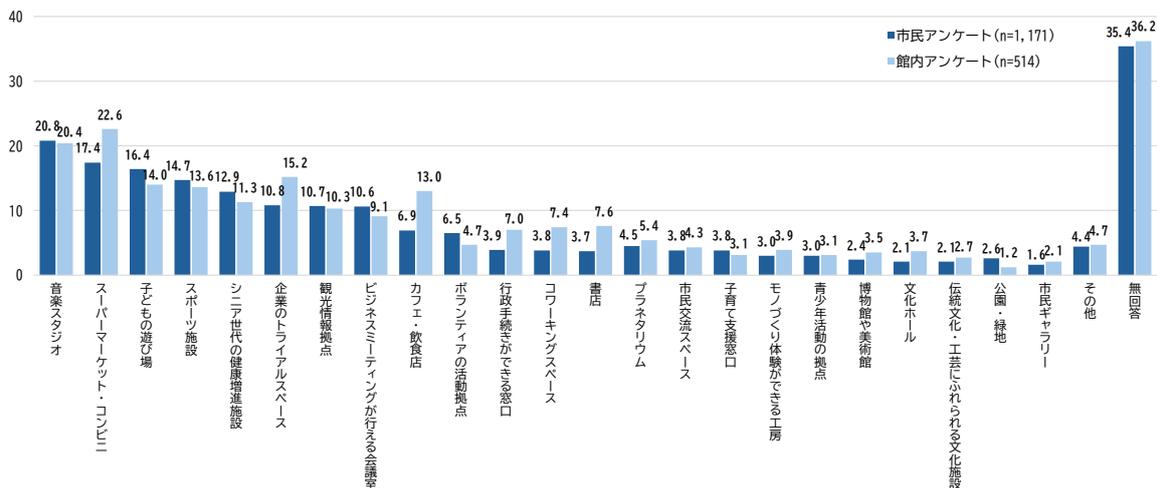
図書館に新たに導入を検討してほしいサービス（複数回答可）



複合化してほしい機能や施設（複数回答可）



複合化してほしくない機能や施設（複数回答可）



その他の主な声

1 図書館の在り方に関する御意見

- ・その日の目的を「図書館」とできるくらい、一日中家族で過ごせる施設にしてほしい。
- ・自由気ままに街を歩いていて、ちょっと休憩したいときにコーヒ一片手に立ち寄れるような場になれば良い。
- ・気軽に立ち寄れる明るい雰囲気や内装にしてほしい。カフェなどが併設されていたら毎日でも通います。
- ・好きを探す場所、好きに出会う場所、好きを考える場所、好きを学ぶ場所、好きでつながる場所、好きから始める場所になってほしい。
- ・むやみに機能を複合させないこと。図書館の機能をしっかり見つめなおし、その機能を発展させることを考えれば、余分で無理な施設にならず、みんなが気持ちよく使えるものになる。

2 空間や音のゾーニングに関する御意見

- ・子どもたちがおしゃべりしても、読書をしている方々が気にならない広いスペースがほしい。
- ・もっと学生や現役世代が行きたくなる図書館を作ってほしい。自習や少しおしゃべりをしてよいスペースがあると嬉しい。
- ・ゆっくりと落ちついて座って過ごせるスペースが少なすぎる。ゆったりとした席配置と座席数に加え、照明の工夫も重要。
- ・市民の学習意欲や文化を支えるのに十分な資料情報を、圧迫感なく、手に取りやすい形で配置できるスペースを求める。調査、学習、くつろぎ、会話など、様々な利用方法に見合った閲覧空間が必要。
- ・ベンチでいいので、本棚と座るところが混在しているのがいいと思います。
- ・観葉植物などの「緑」を取り入れることで、目の疲れを取り、癒しの空間になる。

3 現在の図書館に対する印象に関する御意見

- ・現在の図書館は暗いイメージしかない。玄関周辺や入口からすでに暗く、建物の印象が良くないので、そのあたり改善してほしい。看板や案内表示を変えるだけでも印象は変わると思う。
- ・図書館＝堅苦しいイメージを無くしていくことが重要だと思う。
- ・今の図書館に必要なのは、「図書館への敷居の低さ」ではないかと思う。

<山科区>山科区在住者の主な声

「京都市図書館」が行っているサービスについて、より充実してほしいこと。

- ・本の数が多いほうが、読みたい本が見つかる可能性が高くなる。
- ・雑誌の取扱いが少ない。人気があり話題性の高い雑誌を取り扱ってほしい。
- ・読聞かせ以外に、有料でもいいので工作など魅力的な子ども向けのイベントを求める。
- ・現役世代が仕事帰りに立ち寄れる開館時間にしてほしい。
- ・今の山科図書館は、生活動線上になく不便。駅前に分館か返却ポストが欲しい。

「京都市図書館」の良いところや好きなところ、好きな過ごし方

- ・静かで落ち着ける環境が好き。
- ・現山科図書館の「絵本の次に読むちょっと字の多い本」が、素晴らしい。
- ・現山科図書館の職員さんの対応が素晴らしい。
- ・静かにしないとイケないので、子どものしゃべり声が大きくなるとヒヤヒヤする。
- ・山科図書館では、テーブルに椅子があるだけで、周りの人が気になりくつろげない。
- ・予約本の受取だけで長居する場所ではない。そこにいることが目的になる空間を希望。

今後、図書館をだれもが居心地が良い空間とするために必要なこと

- ・気軽に立ち寄れて、読書ができるスペースがあること。
- ・子どもが騒いでもOKな雰囲気づくり。
- ・若者が気軽に立ち寄れて、長居してもいい雰囲気や居場所づくり。
- ・暗く、堅苦しいイメージを払拭し、行きやすい雰囲気を作ること。
- ・多様なニーズに合わせられるようなスペースの分割。

“京都ならではの図書館”を作るために重要なこと

- ・京都は新しい物を取り入れるのが伝統なので、どんどん新しい事をしてほしい。
- ・机や椅子だけでなく、京都の木材を活用した居心地の良い空間づくり。
- ・子どもや家族で楽しめる場所にして、文化都市に住む文化市民になれる場所にする。
- ・地域の郷土資料の充実。

これまでの図書館のルールやイメージにとらわれずに、やってみたいこと

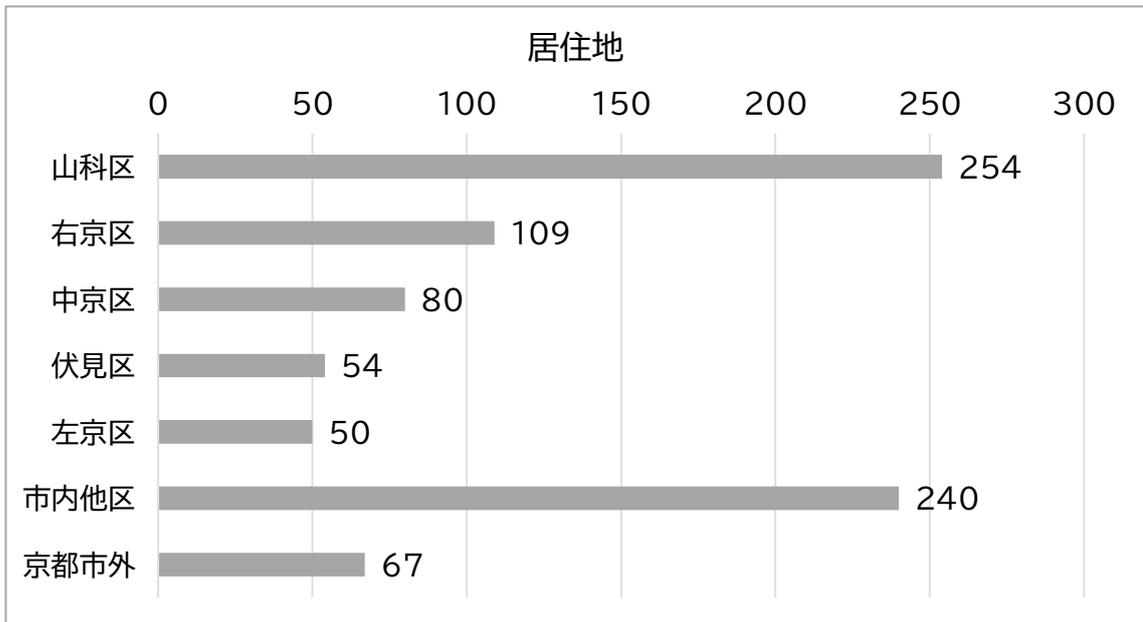
- ・科学センターやさすてな京都など、市立の生涯学習施設と連携した企画。
- ・子どもたちの学習スペースを作ってほしい。
- ・本を借りてゆっくりコーヒーを飲んで長く過ごしたい。
- ・本を読むだけでなく、一日中楽しめる場所であれば、普段本を読まない人でも訪れて本を読んでみようと思う。

○「屋内遊び場に関するアンケート」(抜粋)

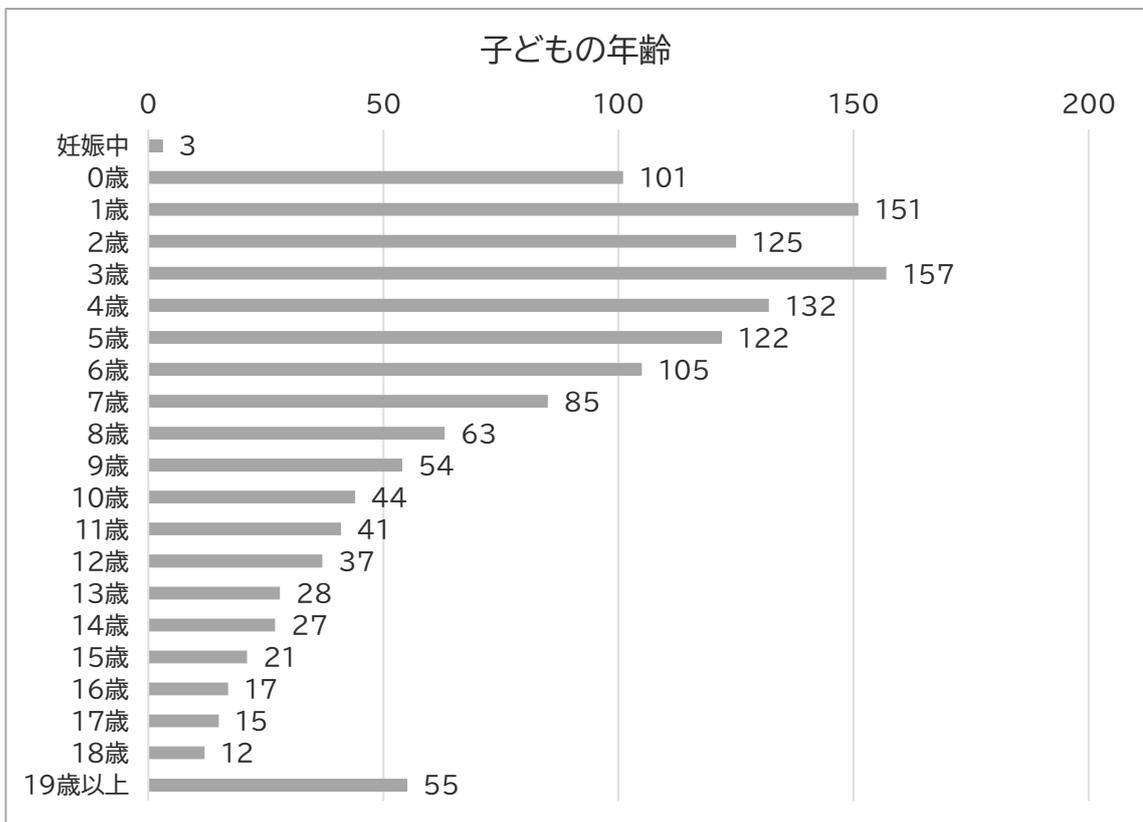
意見総数：854件



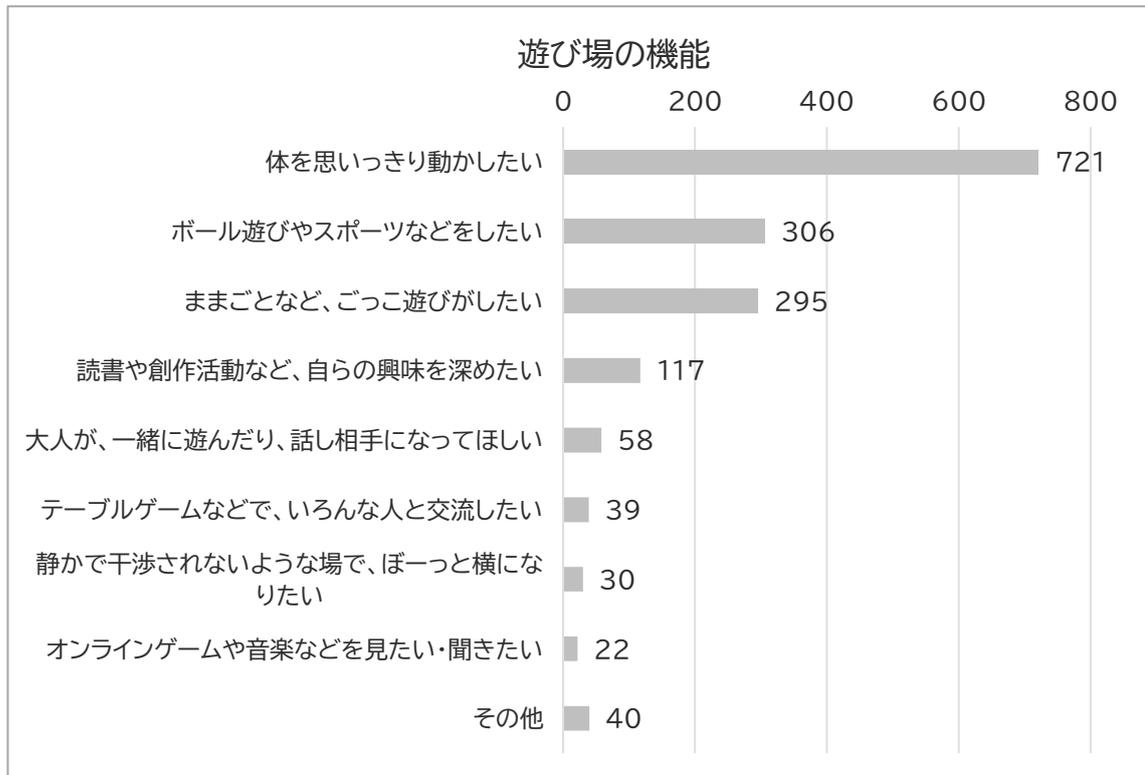
Qお住まいの地域(14区・支所)を教えてください。(n=854)



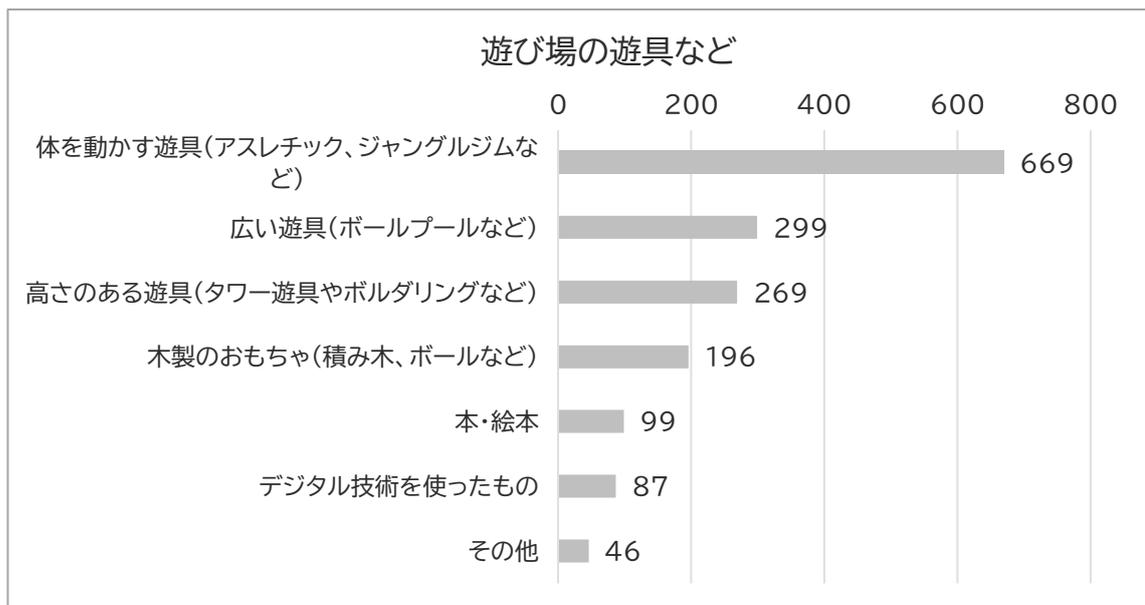
Qお子様の年齢を教えてください。3人以上の場合は、「3人目以降のお子様の年齢」欄にまとめて回答してください。(複数回答) (n=854)



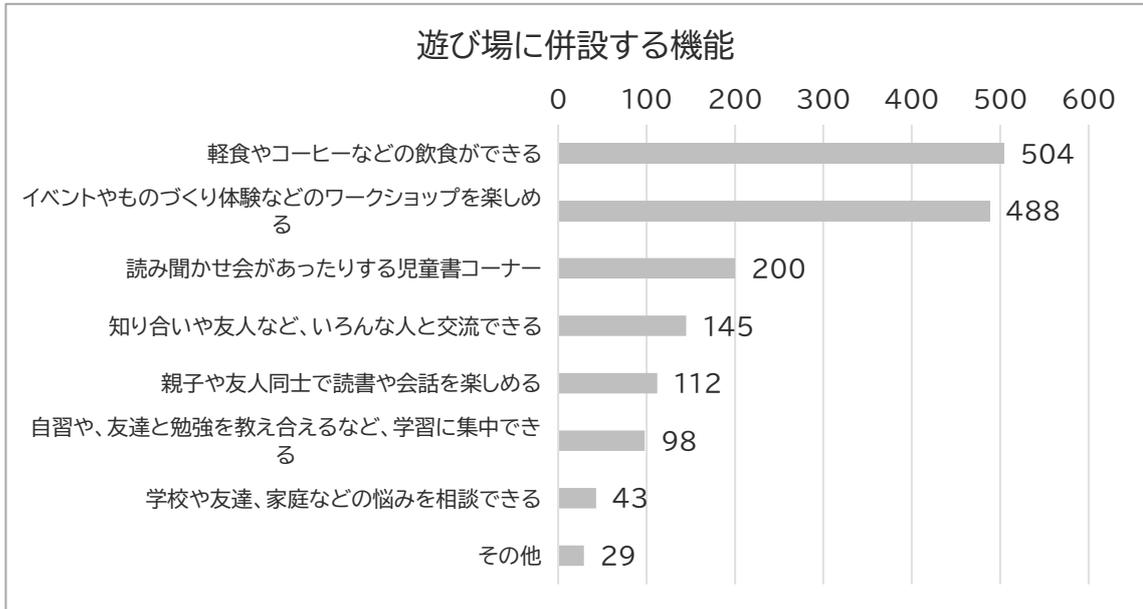
Q 「子どもの屋内遊び場」では、どのように遊びたいですか。2 つまで選択してください。(n=854)



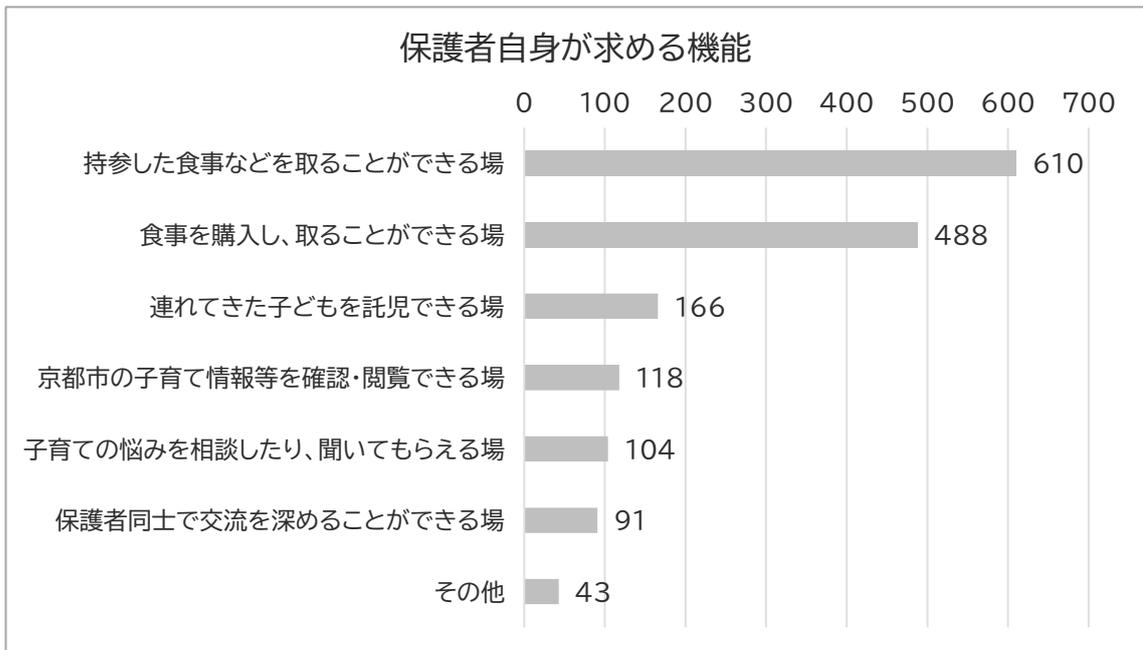
Q 「子どもの屋内遊び場」には、どのような遊具やおもちゃがあればよいですか。2 つまで選択してください。(n=854)



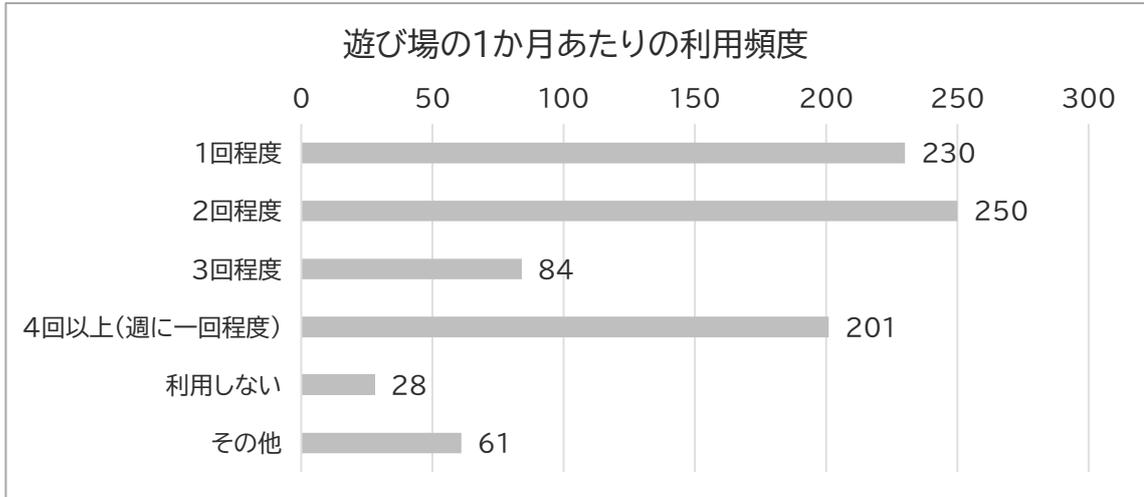
Q「子どもの屋内遊び場」と同じ施設の中に、どのような場所があればよいですか。
2つまで選択してください。(n=854)



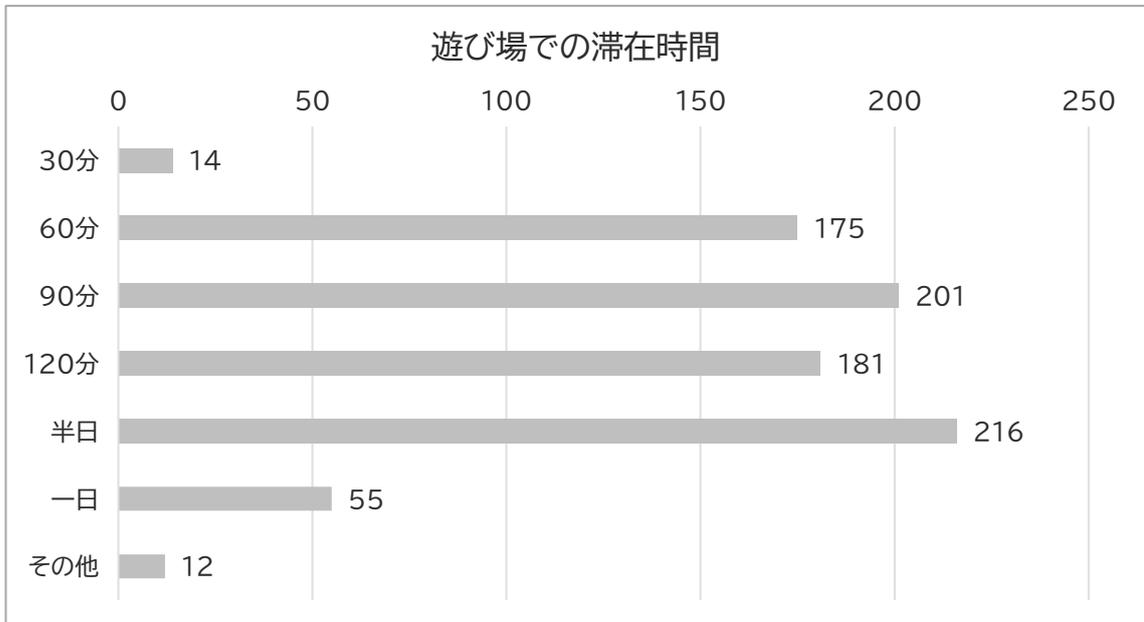
Q「子どもの屋内遊び場」を利用するとき、保護者としてどのような機能があればよいですか。2つまで選択してください。(n=854)



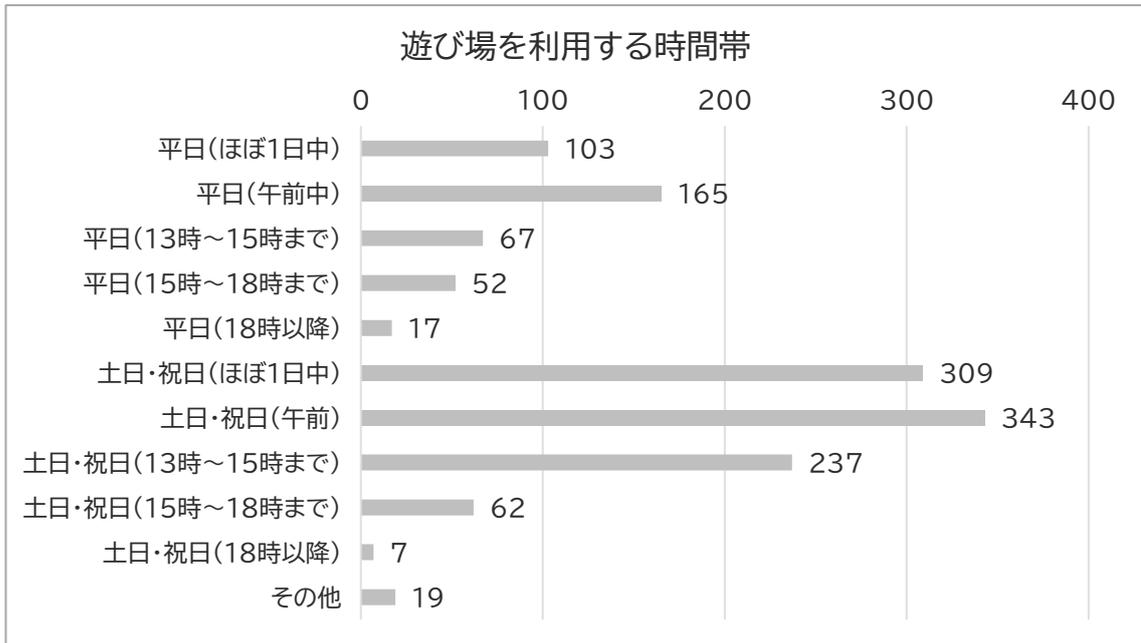
Q 「子どもの屋内遊び場」について、1か月でどのくらい利用したいですか。
(n=854)



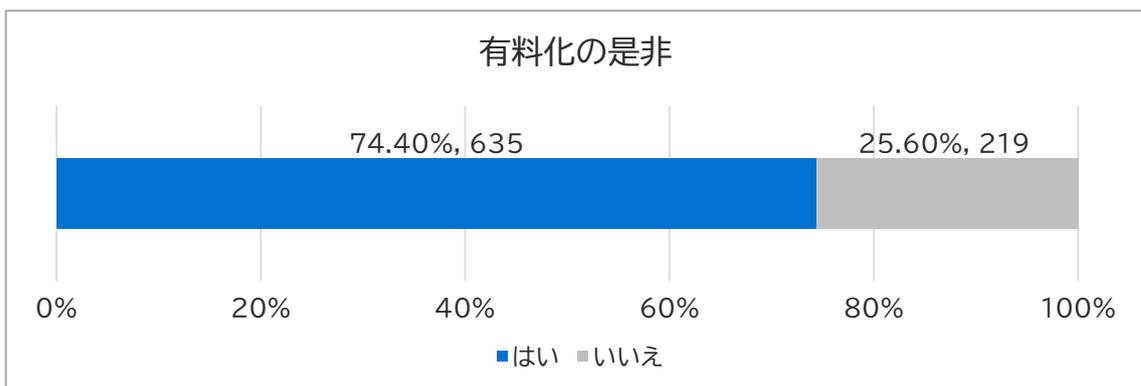
Q 「子どもの屋内遊び場」について、どのくらいの時間、利用したいですか。
(n=854)



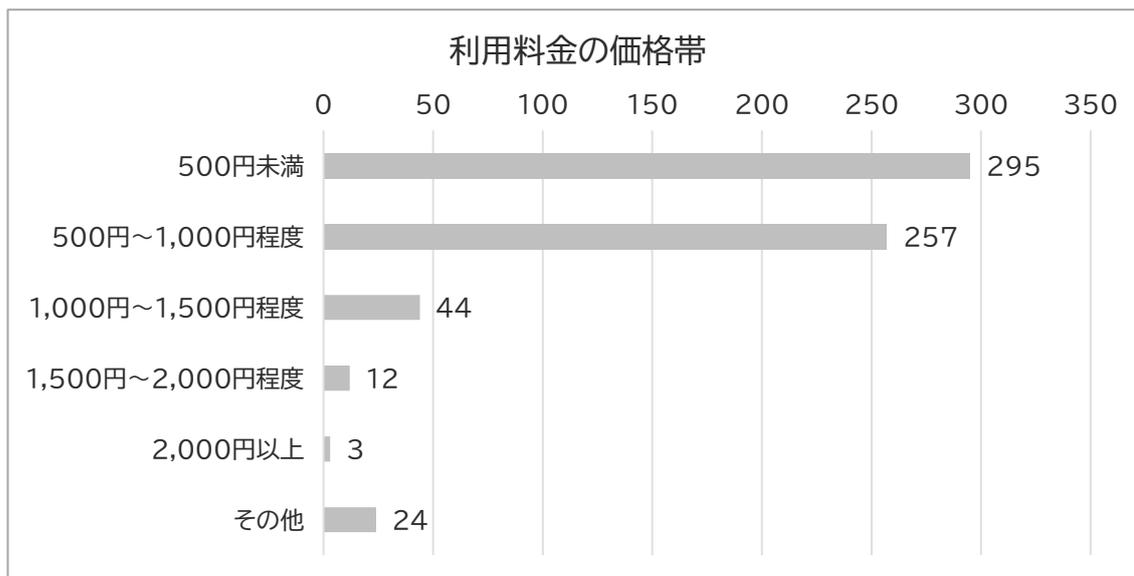
Q「子どもの屋内遊び場」について、どの時間帯で利用したいですか。2 つまで
 選択してください。(n=854)



Q「子どもの屋内遊び場」について、利用料金が有料でも利用したいと思いますか。
 (n=854)



Q 「子どもの屋内遊び場」について、1人あたりの料金（仮に2時間1クールとした場合）がどのくらいまでなら利用したいですか。（n=635）



そのほか、「子どもの屋内遊び場」について要望、意見等があれば教えてください。（自由記述）

自由記述意見のまとめ	
年齢別のエリア分けと幅広い年齢層への対応	異なる年齢の子どもたちがそれぞれ安全に楽しめるよう、エリアを明確に分けることを求める声が多く見られた。特に兄弟姉妹がいる家庭からは、複数の年齢層と一緒に遊べる施設へのニーズがある。
天候に左右されない屋内の遊び場	どんな天候でも利用できる屋内の遊び場が強く求められている。特に、身体を思い切り動かせる施設が望まれている。
清潔で安全な環境	衛生面に対する懸念があるため、徹底した清掃や消毒が重要視されている。また、保護者が目を離しても安全で、必要に応じてスタッフが見守る体制も期待されている。
アクセスの良い立地と駐車場	駐車場や駐輪場の確保、公共交通機関からのアクセス性の良さが求められている。商業施設と併設されていると、買い物なども同時にできるため利便性が高いという意見もある。
学びの要素や多様な体験	体操教室、ダンス教室、習字、そろばんなど、多様な学びの機会提供の要望がある。また、科学センターとの連携や、地域の歴史、将来役立つ情報の提供も望まれている。
利用予約の困難さと混雑	既存施設の予約が取りにくい、または予約制であってもすぐに埋まってしまうという意見が見られる。（特に休日）
利用料金とアクセシビリティ	既存施設は利用料金が高い、特に保護者の付き添い料金が高額だと利用回数が制限されるという意見がある。京都市民や山科区民に対する割引制度や無料エリアの設置が求められている。
見守りと危険性	親がスマートフォンや友人との会話に夢中になり、子どもの見守りがおろそかになる状況が見られるとの指摘や、狭い空間での小学生と乳幼児の混在は危険であるとの意見がある。

○その他アンケートでいただいた主な御意見

実施日：令和7年11月23日

場 所：ふれあい“やましな”2025 区民まつり

回答数：138件

山科区誕生



(この場所に期待すること・欲しいサービス)

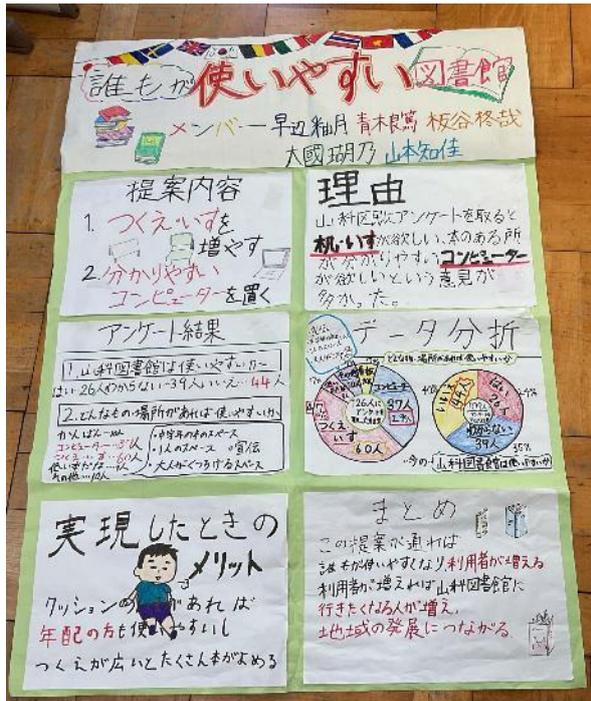
- ・本と、その本から得られる新しい考えとの出会い。
- ・ゆったりゆっくり過ごせるスペースと小さい子供たちが安心してすごせるスペース
- ・室内遊び場で子を見守りながらコーヒー等をのみたいです。
- ・大きい子と小さい子を分けてスペースがあれば安心して過ごせる。
- ・話してもいいスペースと、しずかにするスペースと分かれていたらうれしいです。
- ・飲み物を飲みながら勉強できるスペースが欲しい。
- ・他の区民。山科区民だけじゃない人達との出会い。

この他、たくさんの貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

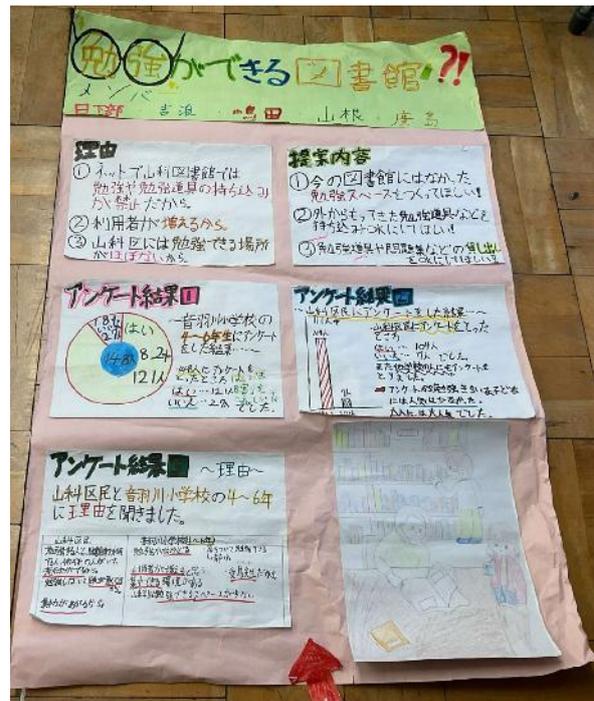
○山科区の小中学生 総合学習

山科区の小中学生が、総合的な学習の時間等を活用して、「meetus 山科-醍醐」をテーマに学習を行い、元京都市ラクト健康・文化館に移転する「山科図書館」や「屋内型子ども遊び場」についても、夢や想いを込めた企画提案に取り組んでいただいています。

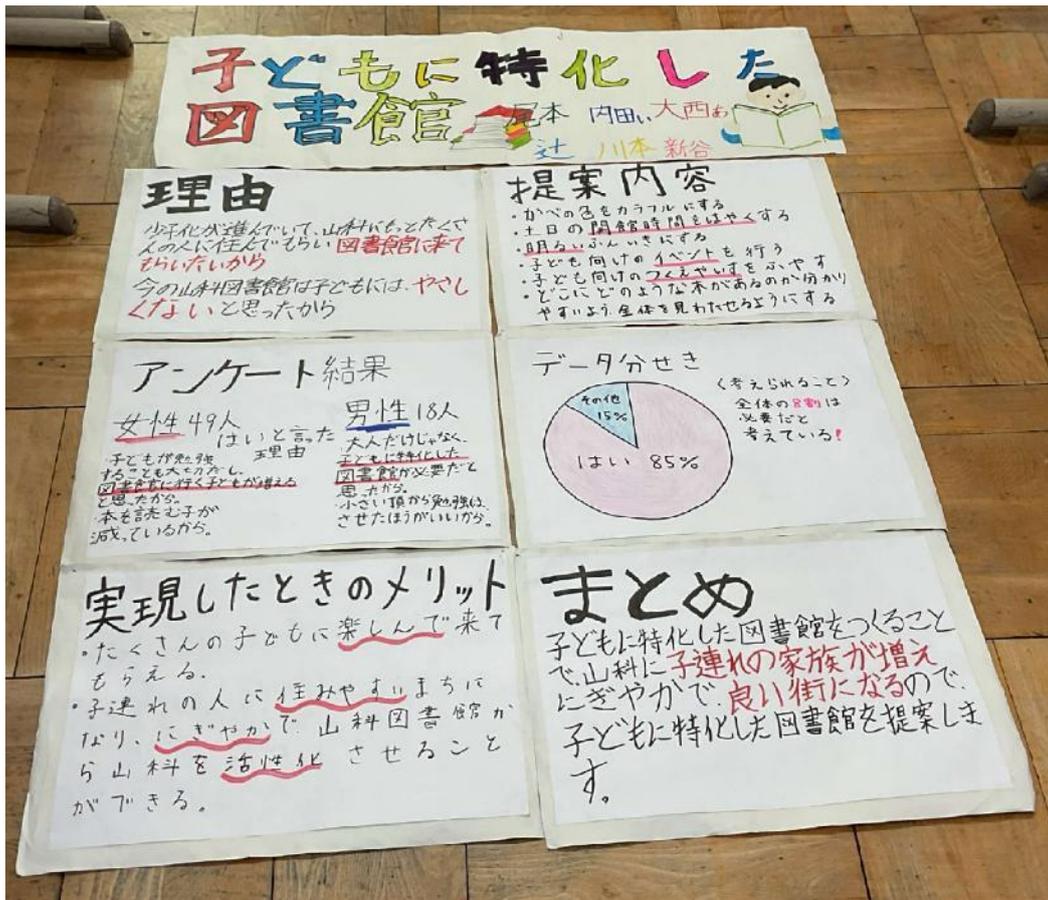
①音羽川小学校 総合学習 発表作品 (抜粋)



誰もが使いやすい図書館



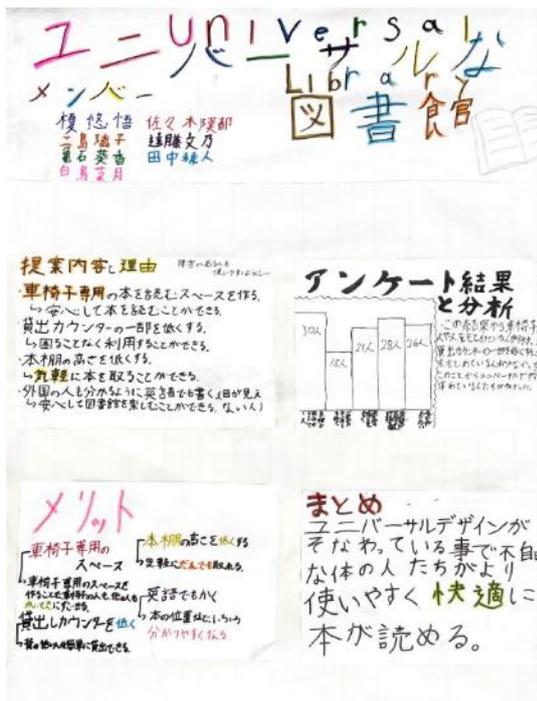
勉強ができる図書館



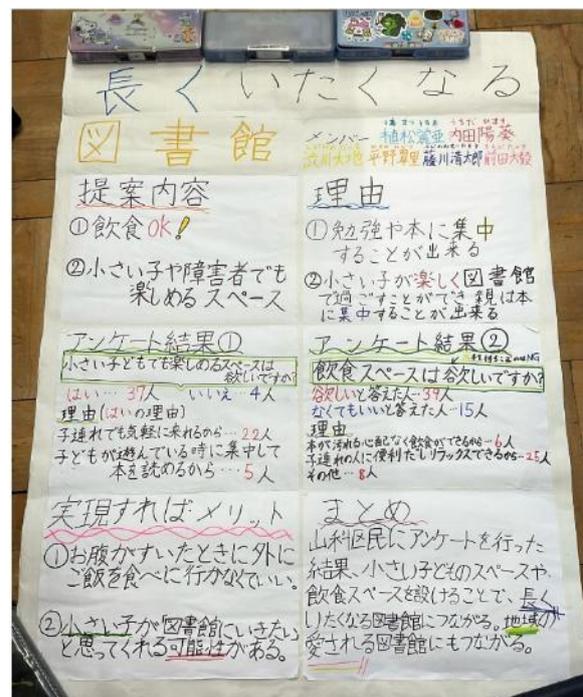
子どもに特化した図書館



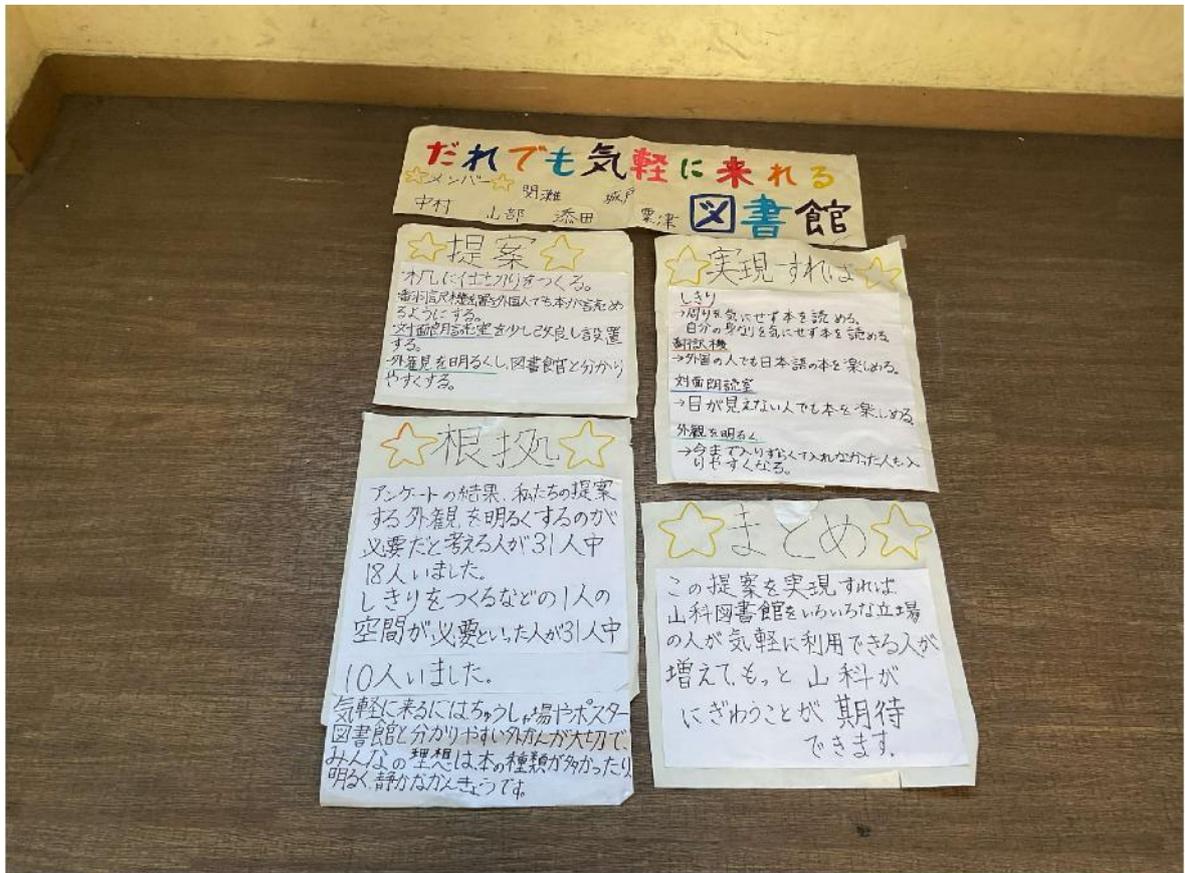
ユーモラスな図書館



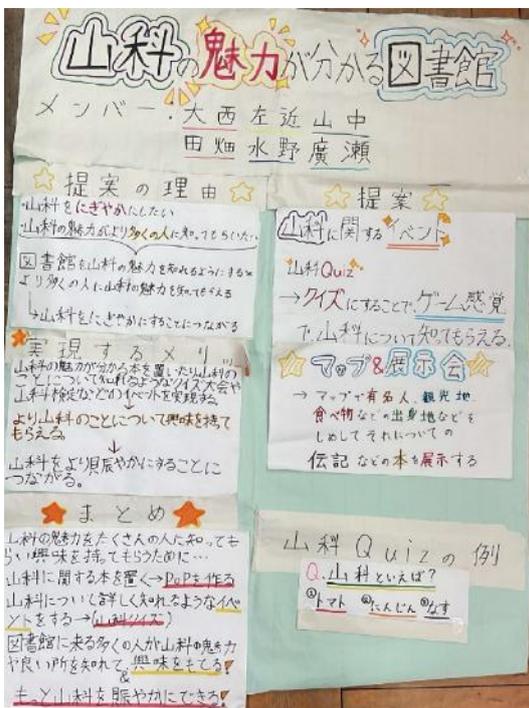
ユニバーサルな図書館



長くいたくなる図書館



だれでも気軽に来れる図書館



山科の魅力が分かる図書館



リラックスできる図書館



勉強ができる図書館



人との関わりがもてる図書館



本の良さを知れる図書館

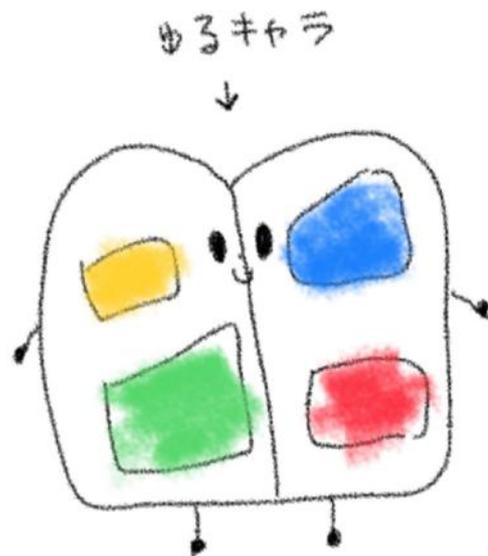
提案 イメージ図



1組 屋内遊び場！

マスコットキャラクターについての提案

- ゆるキャラなどを作る！
- ⇒子ども用スペースなどにはる！
- ゆるキャラ限定イベント！
- 本を**5冊**借りる—お菓子やしおりがもらえる！
- ⇒**たくさんの方がくる**



楽しすぎる図書館！

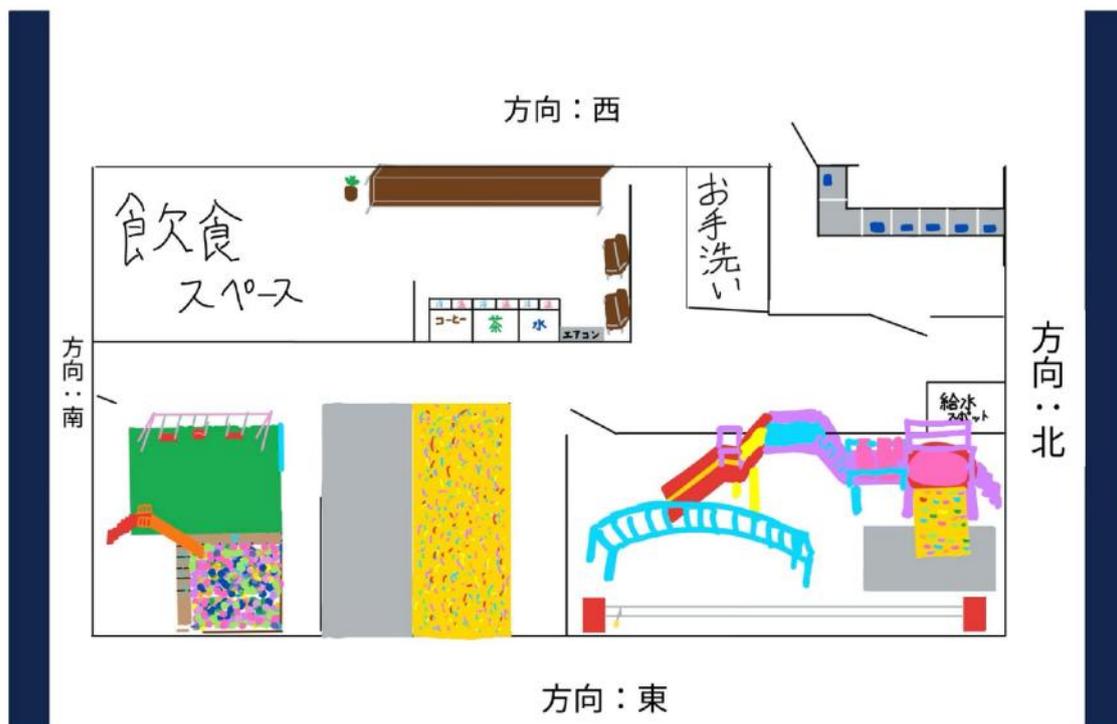
提案

図書館に中高生の姿があまり無い
↓
自習スペースなどの
設置



- ・ 個室、長机→使い分け
-

1 組山科図書館 パワポ!



屋内遊び場 2組 提案!

インタビューした相手		これから欲しいもの	効果
高齢者	障害者	公衆トイレ	外に出てもトイレに困らない
		大きい看板	道に迷いにくくなる
		スロープ	上りやすい
子供	その親	ファミリーレストラン	家族の時間を楽しめる
		カフェ	友達とゆっくり話せる
働いている会社の方		ゴミ箱	街がキレイになる
		Free Wi-Fi	電子機器が使いやすくなる

まちづくりチーム！

山科区内の小中学校では、他にも「山科をPRするCMづくり」や「テーマごとのラボ活動」など、様々な取組が実施されました！